

KENWOOD

# ROXY CD9/CD7

---

## 取扱説明書

株式会社 ケンウッド  
KENWOOD CORPORATION

本機は日本国内専用のモデルですので、外国で使用することはできません。  
修理のためお買上げの販売店またはケンウッドの営業所にセットをお持ちになるときは、  
お買上げのセット全部をお持ちください。(スピーカーを除きます)

---

ケンウッド コンパクト コンポーネント ステレ  
オシステム <sup>ロキシー</sup> ROXY をお買いあげいただきありが  
とうございます。

---

<sup>ロキシー</sup> ROXYの機能をフルに生かすため、お買いあげのシステムに合わせて、  
本説明書をよくお読みになり、末永くご愛用くださるようお願いいたし  
ます。また、お読みになったあとも大切に保存してください。

# 目次

ROXY CD9/CD7組み合わせと別売機種一覧	4
ご使用前に……ぜひお読みください	6
接続のしかた	11
CDプレーヤー(DP-9X, DP-7X)の各部の 名称とはたらき	16
チューナー(T-9X)の各部の 名称とはたらき	18
アンプ(A-7X)の各部の名称とはたらき	20
カセットデッキ(X-7WX)の各部の 名称とはたらき	23
チューナーの時計合わせについて	26
放送をきくとき	28
AMまたはFM放送をきくとき	28
TV放送をきくとき	29
バイリンガルキーについて	29
AM, FM, TV放送をプリセットするとき	30
プリセット選局のしかた	31
タイマー機能について	32
コンパクトディスク(CD) をきくとき	38
演奏するには	38
演奏を一時停止するには	38
演奏を停止するには	39
特定の曲からきくには	39
演奏の途中で曲の頭出しをするには	40
演奏の途中で早送り, 早戻しをするには	41
リピート演奏するには	41
メモリー演奏のしかた	42
メモリーのしかた	42
メモリーを確認するには	43
メモリーを変更するには	43
メモリーを消すには	43
メモリー演奏するには	44
メモリー演奏を一時停止するには	44
メモリー演奏を停止するには	44
メモリーされた特定の曲からきくには	45
メモリー演奏の途中で曲の頭出しをするには	45
メモリーリピート演奏するには	45
カセットテープをきくとき	46
テープ再生のしかた (A, Bデッキとも同じです)	46
リレープレイのしかた	47
AデッキまたはBデッキの エンドレス再生のしかた	48
タイマー再生のしかた	48
テープ録音のしかた	49
録音レベルのセットのしかた	49
自動バイアス調整(AUTO BIAS) (Bデッキ専用)	50
チューナーの録音のしかた (A, Bデッキとも同じです)	50
CDプレーヤーの録音のしかた (A, Bデッキとも同じです)	51

レコードの録音のしかた (A, Bデッキとも同じです)	51
通常の録音のしかた (A, Bデッキとも同じです)	52
リレー録音のしかた	53
同じソースをA, Bデッキ両方で 録音する場合	54
チューナーでタイマー録音をする場合	54
シンクロ録音	55
便利な機能 DPSS (ダイレクトプログラムサーチシステム)	56
ARM(オートレックミュート)無録音部分(曲間) のつくりかた(A, Bデッキとも同じです)	57
先の曲の飛越選曲のしかた (A, Bデッキとも同じです)	58
前の曲の飛越選曲のしかた (A, Bデッキとも同じです)	59
一曲リピート再生のしかた (A, Bデッキとも同じです)	60
巻き戻し再生のしかた (A, Bデッキとも同じです)	60
リレックスタンバイ(録音とリ直し)について (A, Bデッキとも同じです)	61
ダッシュ&プレイ(A, Bデッキとも同じです)	62
クイックリバースについて	62
別々のソースをそれぞれ同時に録音すると きIDRS(アイソレートッドデュアルレ コーディングシステム)	63
別々のソースをそれぞれ同時に 録音するとき	63
A, Bデッキにそれぞれ録音しながら, 録音中の ソースとは別のソースをスピーカーからきくと き	64
AデッキかBデッキで録音しながら, 片方のカセ ットデッキでテープを再生するとき	65
CDの音をダイレクトにテープへ 録音するとき(CCRS)	66
ダビングのしかた	68
ノーマルダビングのしかた (A→Bデッキのみ)	68
高速ダビングのしかた	68
マニュアルダビングについて	69
クロスドルビーシステムによるダビングのしかた	69
グライコダビング	70
ミキシングダビングのしかた	71
ルーレットプレイについて	72
ルーレットプレイのしかた	72
マイクミキシングについて	73
マイクミキシングのしかた	73
スピーカーについて	74
故障? その前にちょっとお調べください	75
保守とお手入れのしかた	79
アフターサービスについて	80
定格	81

# ROXY CD9/CD7 組み合わせと別売機種 一覧

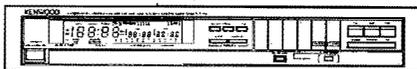
ROXY CD9 / CD7 組み合わせと別売機種一覧

CD9/CD7は“CDプレーヤー2機種 (DP-9XとDP-7X)”, “チューナー (T-9X)”, “アンプ (A-7X)”, カセットデッキ (X-7WX)” とスピーカー2機種  
の組み合わせによってシステムが構成されています。

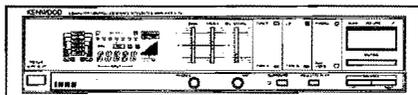
## ROXY CD9/CD7組み合わせ

### CD9 システム

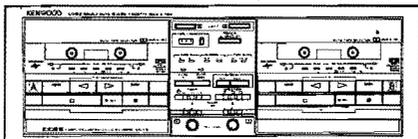
T-9X (チューナー)



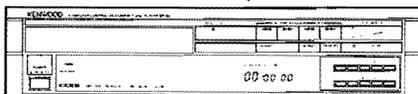
A-7X (アンプ)



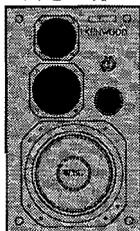
X-7WX (カセットデッキ)



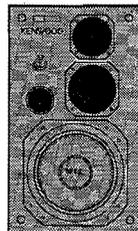
DP-9X (CD プレーヤー)



CD9用  
スピーカー

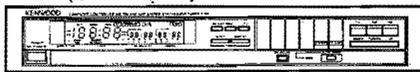


CD9用  
スピーカー

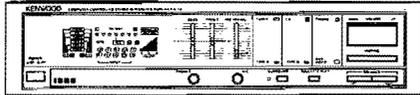


## CD7 システム

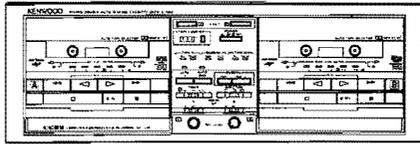
T-9X (チューナー)



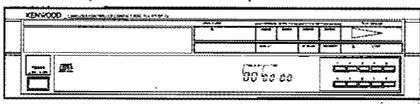
A-7X (アンプ)



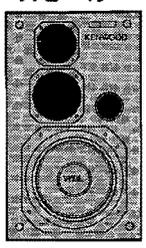
X-7WX (カセットデッキ)



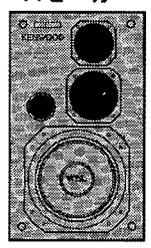
DP-7X (CD プレーヤー)



CD7用  
スピーカー



CD7用  
スピーカー



## 別売機種一覧

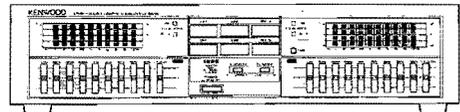
詳しくは、各機器の取扱説明書をご覧ください。

ご注意：

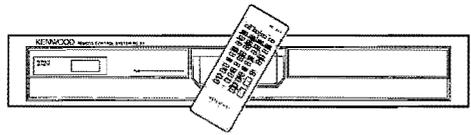
ROXY CD9/CD7 は、各機種間の相互制御を行なっておりますので、オプションについては下記機種の中からお選びの上ご使用ください。

GE-900W

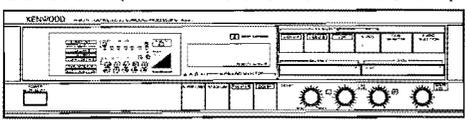
(ステレオ ダブル グラフィックイコライザー)



RC-9X(リモート コントロール システム)

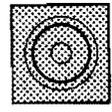


SC-800AV(ドルビー サラウンド プロセッサー)



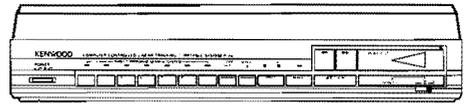
S-01S(サラウンド スピーカー システム)

(2個1組)

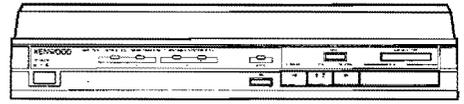


S-01S

P-7X(プレーヤー)



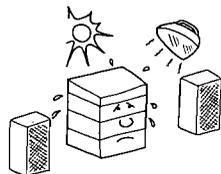
P-5X(プレーヤー)



# ご使用の前に… ぜひお読みください。

## ■ステレオの置き場所

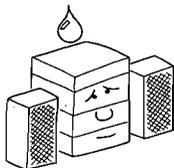
直射日光の当る所、暖房器具など発熱物の近くはさけてください。



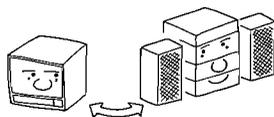
極端に寒い（水が凍るような）場所では十分な性能が発揮できないことがあります。



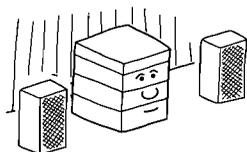
花びん、化粧品など水の入ったものは、セットの上に置かないでください。また、湿気の多い所はさけてください。



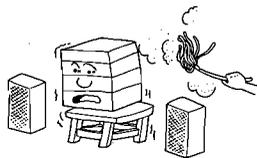
テレビからできるだけ離してご使用ください。



放熱をよくするため、壁から10cmくらい離してください。



不安定な棚などはさげ、ホコリ、振動の少ない水平な場所にセッティングしてください。またプレーヤーとスピーカーはできるだけ離れたほうが、ハウリング防止上有利です。



スピーカーには、右側用スピーカーと左側用スピーカーがあります。背面にL(左), R(右)の表示がされていますので確認の上設置してください。なお、部屋の条件などによりL(左)とR(右)の表示に関係なく配置した方が良好な音場感が得られる場合もあります。

スピーカーを専用の脚やブロック、レンガなどの台の上に置くくと低音域がしっかりとて、全体に自然な音になります。台の高さが低いと低音が出やすく、また高いと中高音が前に出やすくなります。

一般的な台の高さは25~30cm程度です。

左右スピーカーの間隔はそれぞれの機種によって異なりますが、一般的には1.5m~5mの範囲内で選定してください。ステレオ効果が増大し、定位感や奥行感が明確に表現されます。なお、あまり広げ過ぎますと音が散漫になります。

## ■正しく安全にお使いいただくために

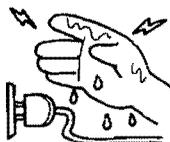
本システムは、交流 100V 専用です。  
200V では絶対に使用しないでください。



システム背面の電源コンセントにヘアピン、縫い針などの金属物が入ると故障や感電の原因になります。とくにお子様へのご注意をお願いします。



電源プラグの抜き差しは、ぬれた手で  
行ないますと感電するおそれがあります  
のでご注意ください。



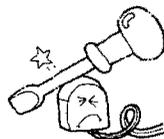
ぬれた手で扱わない

ケースなどをはずし、内部にふれるこ  
とはさけてください。内部に手をふれる  
と感電、故障の原因となることがありま  
す。

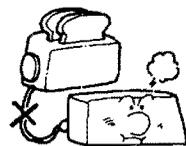


内部には手をふれない

カセットデッキのヘッド部にドライバ  
ー、ペンチなど磁気を帯びたものを近付  
けたり、ヘッド面にキズをつけたりしま  
すと、雑音や音質劣化の原因になります。  
ヘッド回りに関しては取扱いに十分ご注  
意ください。

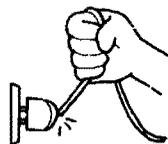


背面の電源コンセントには容量より大  
きい機器を接続しないでください。アイ  
ロン、トースターなどは絶対に接続しな  
いでください。



トースターなどはつながない

電源コードを強くひっぱったり、無理  
に折りまげたり、継ぎ足したりするこ  
とは、通電しなくなったり、ショートのお  
それがありますのでやめましょう。抜く  
ときは、プラグを持ってください。



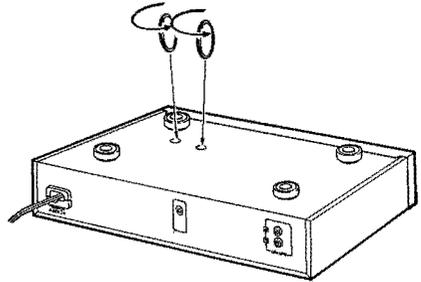
コードをもたない

ご使用の前に……ぜひお読みください

## ■CDプレーヤーの輸送用固定ねじについて

ご使用になる前に、本機底面にある輸送用固定ねじ(赤色2本)をコインなどで外してください。

外したねじは引越しなどで、本機を輸送する際、必要になりますので、必ず保管しておいてください。



### 露付きにご注意

水蒸気が、冷たい物の表面にふれてできた水滴を露(つゆ)といいます。

たとえば、冷蔵庫から取り出したビンなどの容器の表面に、暖かい部屋の空気がふれて水滴ができることがあります。このような現象を露付き(結露または露結)といいます。

この現象が本機内部におきますと、正常に動作しないかまたは、まったく動作しないことがあります。

これは故障ではありませんが、露がとれるまでしばらく乾燥させる必要があります。(本機の電源スイッチをONにした状態で、そのまま放置しておいてください。長くても数時間で露が乾いてきます。)

次のような状態のときは、特に露付きにご注意ください。

- 寒いところから暖かい部屋など気温差の高いところへ持ち込んだとき。
- 暖房を効かせはじめたとき。
- 冷房のよく効いた部屋から、湿気が高く気温の高い部屋へ持ち込んだとき。
- その他本機と外気との差が大きく、露付きの状態となりやすい条件のとき。

### スピーカーの防磁とテレビのご注意

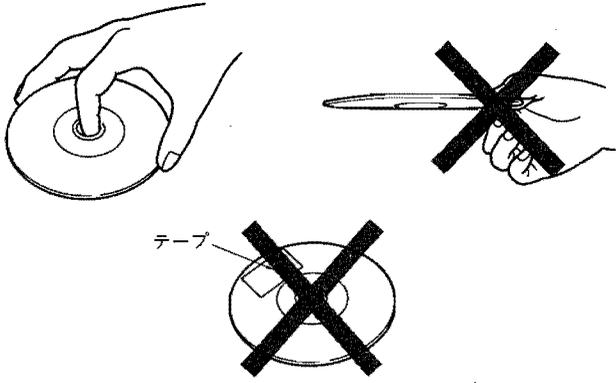
本システムのスピーカーはカラーテレビの色ムラが起らない様に防磁処理がされております。しかし、テレビの種類や設置場所の環境によっては色ムラを起す場合があります。その場合はテレビを離して設置してください。

# ■コンパクトディスクについてのご注意

●コンパクトディスクの汚れや、ごみ、きず、そりなどが、音とびなど誤動作の原因となることがあります。いつまでも美しい音で楽しめるように、次のことにご注意ください。

## 〈ディスクの取扱いかた〉

演奏面（虹色に光っている面が演奏面）に触れないように持ってください。演奏面はもちろん、ラベル面にもテープなどを貼らないでください。

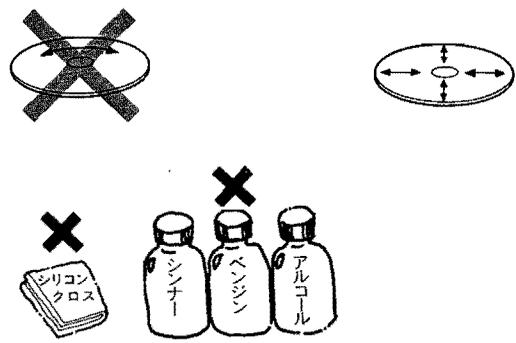


## 〈コンパクトディスクの保存〉

- 直射日光が当たるところなど高温の場所、湿度の高い所には、置かないでください。
- 長期間演奏しないときは、ケースに入れて保管してください。ケースに入れずに、重ねて置いたり、ななめにたてかけて保管したりしないでください。その原因になります。

## 〈コンパクトディスクのクリーニング〉

●ディスクに指紋がついたり、汚れた場合は、やわらかい木綿の布などで放射状に軽くふきとってください。シンナー、ベンジン、アルコールなどの薬品は絶対に使用しないでください。また、従来のレコードクリーナー、静電防止剤なども使用しないでください。



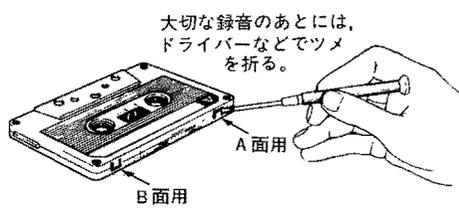
ご使用の前に……ぜひお読みください

## ■カセットテープについてのご注意

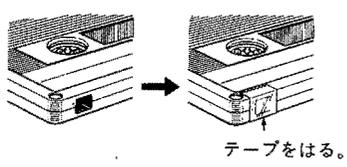
### ●誤消去防止装置

カセットテープには、誤って大切な録音を消してしまうことのないように、誤消去防止検出孔が設けられています。大切な録音のあとには、この部分のツメを折ってください。誤消去・誤録音が防げます。なお、折ったツメは必ず取除いてください。

再度録音するときは、セロハンテープで穴をふさいでください。



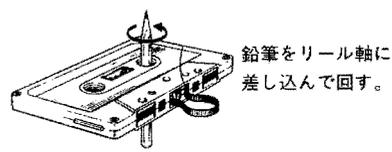
誤消去防止装置



再び録音するには

### ●テープがたるんでいる場合

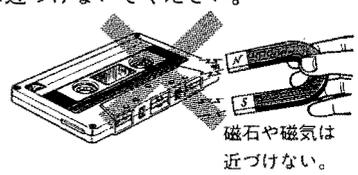
このような場合には、リール軸に鉛筆などを差込んで、テープのたるみをとってから装着してください。たるみがあるまま使いますと機械にテープがまきつく、テープが切れるなどの原因になりますのでご注意ください。



テープがたるんでいる場合

### ●カセットテープの保管について

カセットテープは、その性質上大変熱に弱く、直射日光下や暖房器などのそばには、放置しないでください。また、大切な録音を消さないために、磁石や磁気は近づけないでください。



大切な録音を消さないためには

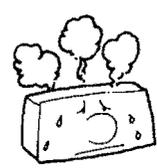
## ■セットのお手入れ

前面パネル、ケースなどが汚れたときは、シリコンクロスかやわらかい布でからぶきます。シンナー、ベンジン、アルコールなどは変色の原因になることがありますので、ご使用にならないでください。



## ■万ーステレオに異常がおこったら

万一、煙がでている、また変な臭いがするなどの異常がおきたときは、電源スイッチをすばやくOFFにして電源コードを抜いてください。そのうえで速かに購入店または最寄りのケンウッドサービスセンター、営業所へご連絡ください。



# 接続のしかた

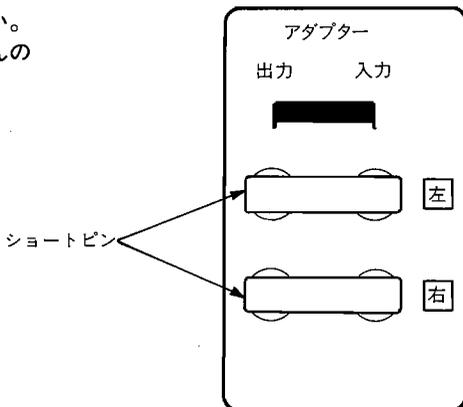
接続が完了するまで、電源コードは差し込まないでください。  
接続のしかたについては別紙添付のシステム“接続のしかた”を合わせて  
ご覧ください。

## ご注意

- 接続コードのピンプラグは確実に差込んでください。  
差込みが不完全ですと、音が出なくなったり、雑音を発生することがあります。
- 背面のコンセントは定格以上は、接続しないでください。
- 積み重ね順序はシステム接続図通りに行ってください。
- 全ての接続コードは確実に接続してください。
- 全ての接続が終了した後に接続コードを抜き差しする場合は、必ず電源コードをコンセントから抜いてください。電源コードをそのままにして抜き差しを行うと、誤動作または破損の原因になります。
- 本システムはマイコンを使用していますので、外部からの雑音や妨害ノイズにより、正常に動作しないことがあります。そのような場合は、電源コードを一度抜いてからあらためて差し込んでください。

## ■ アンプ背面アダプター端子

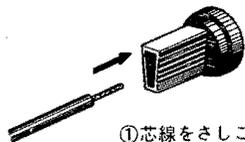
アダプター端子を使用しないときはショートピンを差込んでおいてください。  
ショートピンがないと出力が出ませんのでご注意ください。



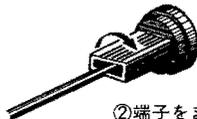
## ■スピーカーコードの接続

1. 左側スピーカーは、アンプスピーカ一端子の左端子に、右側スピーカーは、右端子に接続します。
2. スピーカーコードの芯線が他の端子にふれないように右図の順序で接続してください。
3. スピーカー端子の極性(+・-)とスピーカーの極性は、必ず+と+、-と-を合わせて接続します。+と-は絶対にショートさせないようにご注意ください。

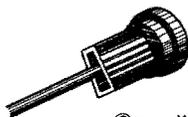
左・右を反対にしたり、極性をまちがえて接続しますと楽器などの位置がはっきりせず、不自然な音となります。



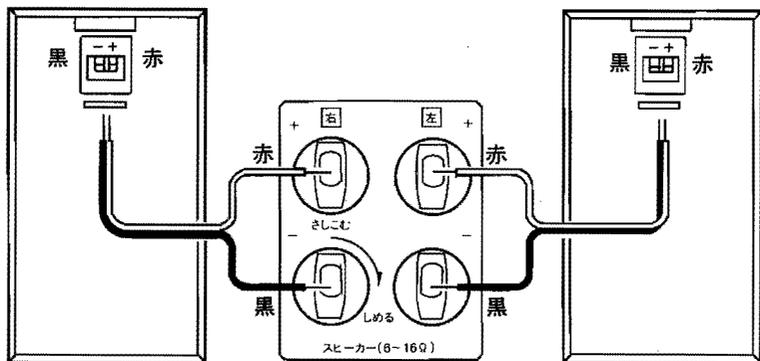
①芯線をさしこむ。



②端子をまわす。



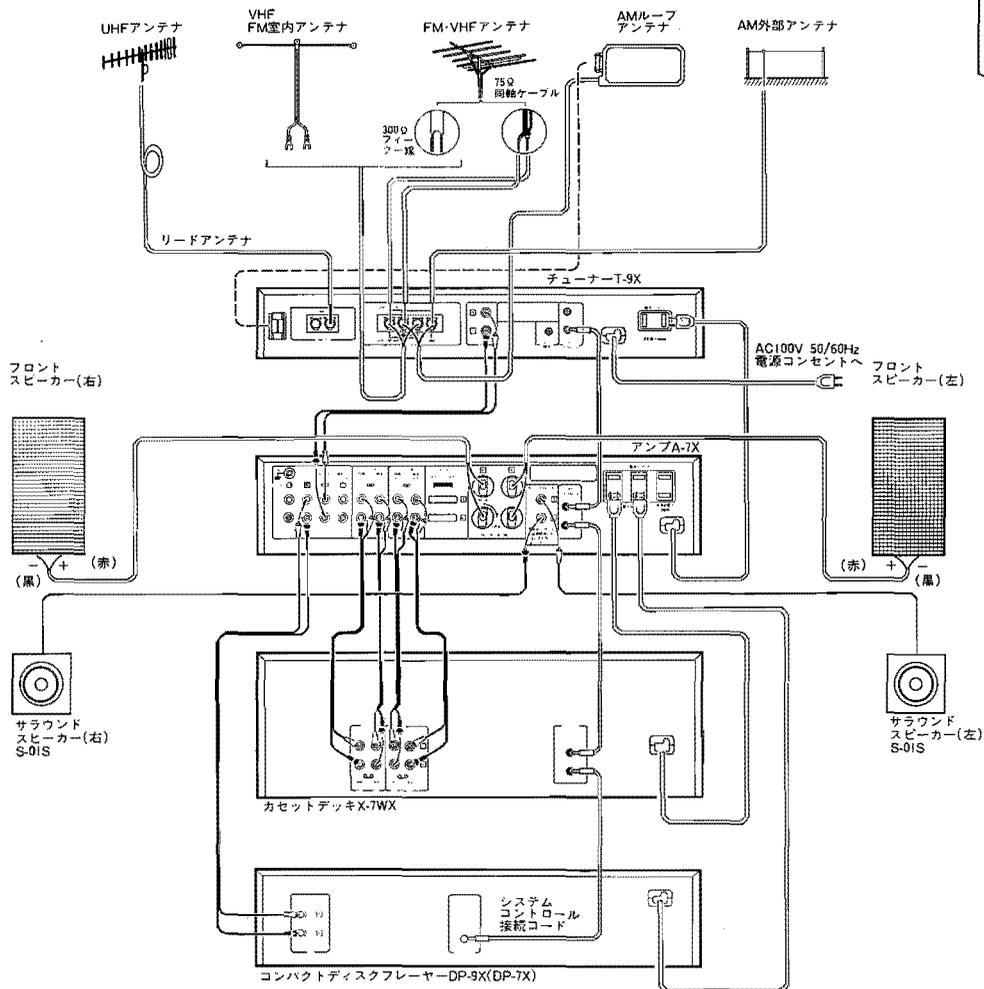
③コードがぬけないことを確認してください。



# 基本システムの接続

アンテナの接続については別紙添付の“接続のしかた”を参照してください。

接続のしかた



# 〈アンテナの接続について〉

## ■FM, VHF, UHF アンテナの接続

接続のしかた

### FM 室内アンテナの接続

都市部など放送局の送信アンテナから近く、木造の建物の中で電波の強い地域では、付属のアンテナが使えます。壁や天井などできるだけ高い所に固定します。

しかし、室内アンテナは、回りの状況の変化によって、アンテナ端子への入力も変化しやすく、安定な受信は期待できないことがありますので付属のアンテナは、屋外アンテナを設置するまでの間、一時的にご利用ください。

### FM 専用アンテナの接続

FM 雑音の中で、悩みの多いものにイグニッションノイズ（自動車のエンジンよりでる雑音）があります。この雑音をさけるためにも図のように、アンテナを、道路からできるだけ離れた所にたててください。

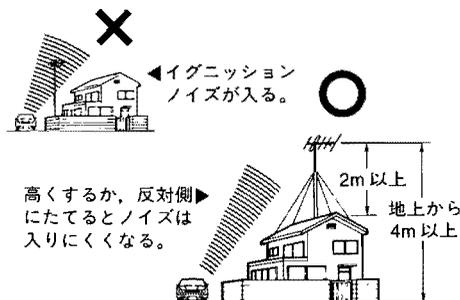
また、送信アンテナからごく近い所で、FM 専用アンテナをたてますと、電波が強すぎて音がひずむことがあります。これは故障ではありません。アンテナを室内アンテナにかえるか、またはお近くのケンウッド営業所にご相談ください。

75ΩのFM専用アンテナは、75Ωの同軸ケーブル（3C-2V か 5C-2V）で、VHF/FM75Ωアンテナ端子に接続します。

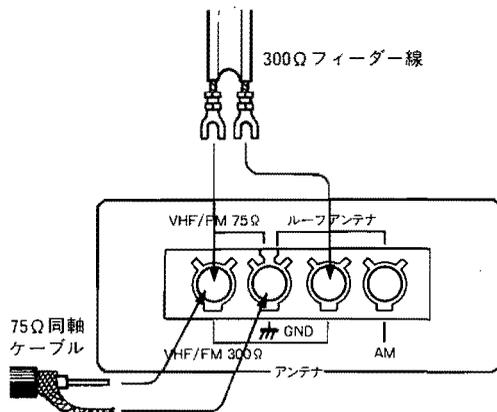
300Ωの専用アンテナは、300Ωのフィーダー線で、FM300Ωアンテナ端子に接続します。

ご注意：

くわしくはご使用になるアンテナの取扱説明書をご覧ください。



FM専用アンテナの設置位置



300Ωフィーダー線と75Ω同軸ケーブルを同時に接続しないでください。

## ■AM アンテナの接続

### AM 専用ループアンテナ

チューナー背面に付属の AM 専用ループアンテナを取付けます。図のようにまわし、受信状態が一番よくなる方向をさがしてください。

また、ループアンテナ本体は取りはずしができます。付属のアンテナホルダーを使用して、壁などに取り付けて使用できます。(付属のホルダーのツメの部分をナイフなどで切り取ってからシールをはがし、壁などに固定してください。さらにホルダー中央の穴を通して、木ねじで固定することもできます。)

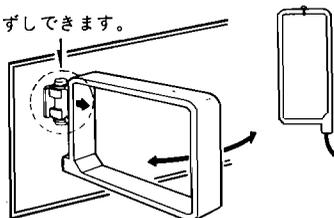
ご注意：

1. AM 放送を受信するときに、ピーツというビートノイズがでることがあります。その際は、AM ループアンテナをチューナーに対して90°の方向にするか取りはずして、離してください。

2. ループアンテナを調整しても、受信状態が悪い地域は、ビニール被覆線を6~15m 屋外にはって AM アンテナ端子に接続してください。このとき必ずループアンテナも接続したままにしておきます。

背面から取りはずして壁などに掛けられます。

取りはずしできます。



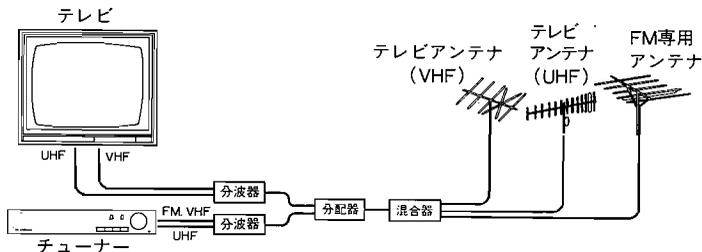
最もよく受信できるようにループアンテナの方向を変えてみる。

AMループアンテナの調整

## ■TV/FM アンテナの接続

- FM 専用アンテナとテレビアンテナをおののけするとき下図のように接続してください。

- UHFは電波の性質上指向性があるため室内アンテナで実用にならないことがありますので屋外アンテナを接続するようおすすめします。



# CDプレーヤー(DP-9X,DP-7X)の各部の名称

CDプレーヤー(DP-9X,DP-7X)の各部の名称とはたらき

## ①電源スイッチ

押すと電源が入り、再び押すと電源が切れます。

## ②ディスクトレイ

開閉キー (OPEN/CLOSE) を押すことにより開閉します。

## ③リピートキー (REPEAT)

繰り返し演奏をききたいときに押します。もう一度押すと解除されます。

## ④メモリーリードキー (M-READ)

メモリー内容を確認するときに押します。

## ⑤メモリーキー (MEMORY)

お好みの曲をメモリーするときに押します。

## ⑥選曲キー (10キー)

メモリーするときや、選曲するときこのキーでトラックNoを入力します。

## ⑦ストップキー (□ STOP)

演奏中に押すとストップ状態になります。

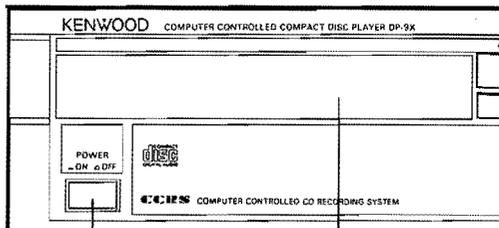
## ⑧プレイ/ポーズキー

(PLAY/|||PAUSE)

このキーを押すと演奏が始まりさらにもう一度押すと一時停止 (ポーズ) 状態になります。

DP-9X

DP-7X



イラストは DP-9X です

①

②

## スキップキー (SKIP)

## ⑨アップキー (▶▶)

このキーを押すと先の曲へ進みます。押しつづけると順次先の曲へ進みます。

## ⑩ダウンキー (◀◀)

このキーを押すと演奏中の曲の頭に戻ります。押しつづけると順次前の曲へ戻ります。

# とはたらき

CDプレイヤー(DP-9X、DP-7X)の各部の名称とはたらき

## マニュアルサーチキー (MANUAL SEARCH)

### 11 早送りキー(▶▶)

演奏中にこのキーを押すと早送りになります。

### 12 早戻しキー(◀◀)

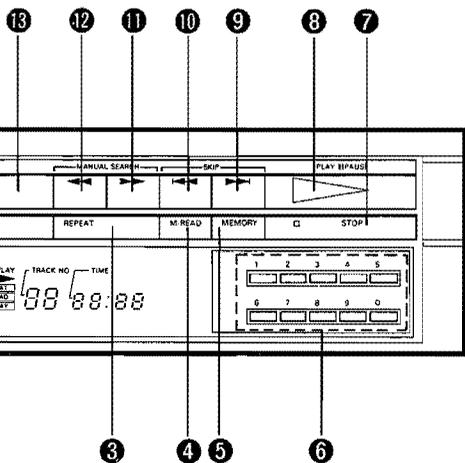
演奏中にこのキーを押すと早戻しになります。

## 13 開閉キー(▲ OPEN/CLOSE)

トレイを開閉するときに押します。  
※トレイが閉じている途中で押すと逆転して開きます。またトレイが開いている途中で押すと閉じます。

ご注意：

トレイを強制的に止めてコンパクトディスクの入れ換えをすると誤動作の原因となります。トレイオープン中に強制的に止めると5秒後自動的にクローズ動作に入り、トレイクローズ中に強制的に止めると5秒後自動的にオープン動作になります。



## 1 ポーズインジケータ(PAUSE)

一時停止状態のとき点灯します。

## 2 リピートインジケータ (REPEAT)

リピートキーが押されたとき点灯します。

## 3 メモリーリードインジケータ (M-READ)

メモリーされているときにメモリーリードキーを押すと点灯します。

## 4 メモリープレイインジケータ (M-PLAY)

メモリーされているときに点灯します。

## 5 タイムディスプレイ (TIME)

- ストップ状態のときは、ディスクの全演奏時間を表示します。
- 演奏中は演奏曲ごとの経過時間を表示します。
- 停止状態でメモリーされているときは、プログラムの全演奏時間を表示します。(メモリ演奏のしかたを参照ください。)

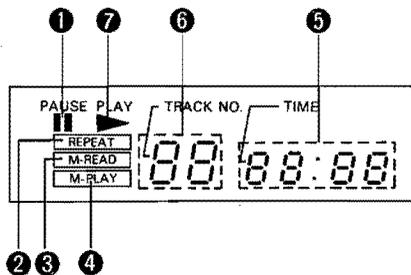
## 6 トラックナンバーディスプレイ (TRACK NO.)

トラックナンバー(曲番)を表示します。

## 7 プレイインジケータ(▶PLAY)

演奏中に点灯します。

## <CD プレーヤーの表示窓>



# チューナー(T-9X)の各部の名称とはたらき

チューナー(T-9X)の各部の名称とはたらき

## ①電源スイッチ (POWER)

このスイッチで、システム全体の電源ONとSTAND BYの切り換えができます。

## ②スリープタイマーキー (SLEEP)

スリープタイマーをセットするときに押します。10分単位で60分までセットできます。

## ③ディスプレイキー (DISPLAY)

表示窓を時刻表示と周波数表示に切り換えるキーです。

## ④バイリンガルキー (BILINGUAL)

TV放送の音声多重放送の主音声と副音声を切り換えるとき押します。

## ⑤オート/マニュアル(モノ)キー (AUTO/MANUAL(MONO))

FMステレオとモノラルの切り換えスイッチです。オートにしておくとオートチューニングになります。

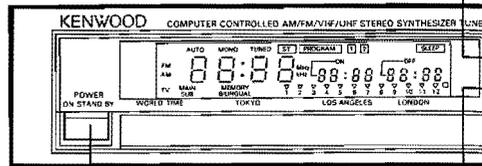
## ⑥チューニングキー (TUNING)

AM/FM/TV放送局を選局するときに押します。UP側を押すと周波数の高い方へ、DOWN側を押すと周波数の低い方へ選局します。

## ⑦バンドセレクトキー

おききになる放送に合わせて押します。

T-9X



## ⑧プリセットキー

### ●10キー(1~0)

時刻あわせ、タイマープログラム、AM/FM/TV放送をプリセットするキー

### ●エンターキー(ENTER)

時刻、タイマープログラム、放送局をプリセットするときに使用します。

### ●クリアーキー(CLEAR)

タイマーアジャスト、プログラムセットを行った場合、修正のときに使用します。

### ⑨プログラム1, 2キー

(1⇔2)

タイマープログラムをセットするとき、タイマープログラムを実行するときに押します。タイマープログラムは2種類セットできます。

### ⑩プログラムセットキー

(PROG.)

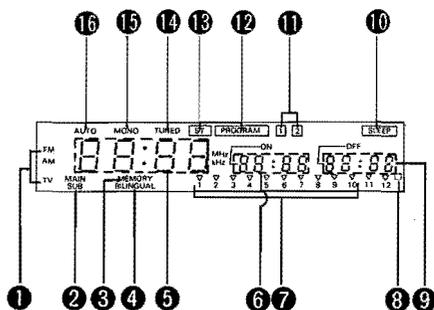
タイマープログラムをセットするときに押します。

### ⑪タイマーアジャストキー

(ADJUST)

時計あわせをするときに押します。

### 〈チューナーの表示窓〉



①FM/AM/TV インジケータ

②メイン/サブインジケータ

③メモリーインジケータ

④バイリンガルインジケータ

⑤周波数/時刻表示部

⑥ON タイム/ワールドタイム表示部

⑦プリセットチャンネルインジケータ

⑧秒表示インジケータ (1秒ごとに点滅します)

⑨ OFF タイム/

ワールドタイム表示部

⑩スリープタイマーインジケータ

⑪タイマー1, 2インジケータ

⑫プログラムインジケータ

⑬ステレオインジケータ

⑭チューンドインジケータ

⑮モノインジケータ

⑯オートインジケータ

# アンプ(A-7X)の各部の名称とはたらき

## アンプはステレオシステムの中心です。各スイッチ類のはたらき

アンプ(A-7X)の各部の名称とはたらき

### ①電源スイッチ(POWER)

スイッチを押してON(  )にすると電源が入り、もう一度押すとOFF(  )になり電源が切れます。

### ②ヘッドホン端子(PHONES)

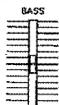
ステレオヘッドホンできくとき、この端子に接続します。

スピーカーからの音は自動的に切れます。ヘッドホンの抜き差しは、音量を絞ってから行ってください。

### ③音質調整つまみ

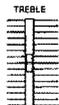
#### (BASS, TREBLE)

リスニングルームやスピーカーの音響特性を補正するときに使用します。



↑低音が強調されます。

BASS  
↓低音が減衰します。



↑高音が強調されます。

TREBLE  
↓高音が減衰します。

### ④サラウンドスイッチ/インジケータ( SURROUND)

別売のサラウンドスピーカーを接続したとき、このスイッチをONにすると、音場拡大効果が得られます。

サラウンド機能により、臨場感のあるライブサウンドが楽しめます。

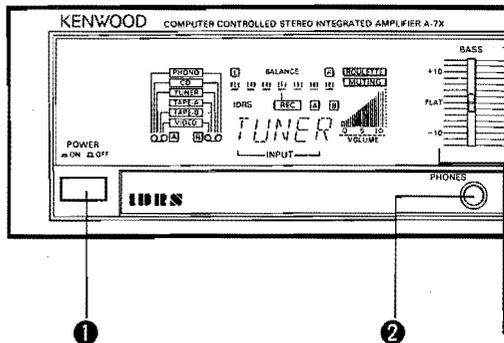
### ⑤ルーレットプレイスイッチ (ROULETTE PLAY)

このスイッチを押すと入力ソースがランダムに選ばれ、演奏されます。

再度押すと解除されます。

このスイッチが解除されないと入力モード切換えスイッチが動作しませんので、ルーレットプレイ中以外は、必ず解除してください。

A-7X



### ⑥バランス調整キー(BALANCE)

左右の音量バランスを調整します。

左 (LEFT) を押すと右の音が小さくなり、右 (RIGHT) を押すと左の音が小さくなります。

らきを覚えましょう。

### ⑦ ボリュームキー (VOLUME)

スピーカーとヘッドホンの音量を調整するキーです。

電源を切るまえに必ず音量を絞ってください。

ご注意： \_\_\_\_\_

音量レベルは通電バックアップされるのでコンセントからプラグを抜かない限り電源 OFF のときの音量を保ちます。しかし、停電時や、プラグを抜いたときは自動的に小音量にセットされます。

### ⑧ ミューティングスイッチ (MUTING)

このスイッチを押すと音量を瞬時に小さくできます。

再度押すと元の音量に戻ります。

### ⑨ 入力モード切換えスイッチ

TUNER (  ) : チューナーをきくときに押します。

CD (  ) : コンパクトディスクプレーヤーをきくときに押します。

PHONO (  ) : プレーヤーをきくときに押します。

AUX/VIDEO (  ) : 補助入力/ビデオ端子に接続したプログラムソースをきくときに押します。

TAPE A (  ) : カセットデッキのAデッキをきくときに押します。

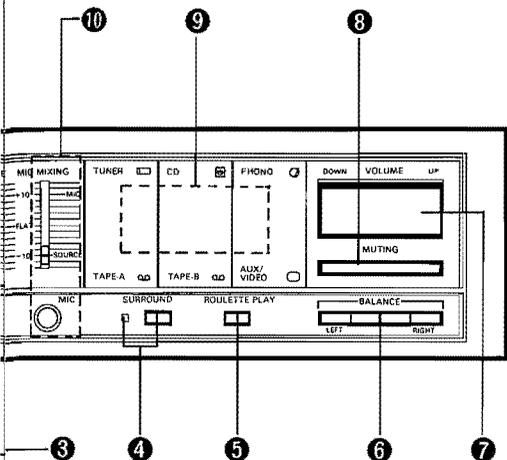
TAPE B (  ) : カセットデッキのBデッキをきくときに押します。

ご注意： \_\_\_\_\_

この入力モード切換えスイッチは、AデッキまたはBデッキが録音中のときを除いて、入力モードとTAPE A 録音モード、TAPE B 録音モードを同時に切換えます。

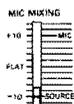
録音したいときは、録音モードインジケーターがご希望のソースになっていることを確認してください。

アンプ(A-17X)の各部の名称とはたらき



### ⑩ マイク端子/ミキシングレベル調整つまみ (MIC/MIC MIXING)

マイク端子にはモノラルマイクを接続します。



↑ ソースの音が小さくなりマイクの音が大きくなります。

↓ マイクの音が小さくなりソースの音が大きくなります。

マイクを使用しないときは、必ずSOURCEの位置にして、マイクを抜いておいてください。

またマイクの抜き差しは、ミキシングレベル調整つまみをSOURCEの位置にしボリュームキー(VOLUME)で音量をしぼって行ってください。

アンプ(A-7X)の各部の名称とはたらき

## <アンプの表示窓について>

**①TAPE A 録音モードインジケーター (TAPE-A REC)**

カセットデッキのAデッキで録音できるモード表示が点灯します。  
また、録音中は点滅します。

**②TAPE B 録音モードインジケーター (TAPE-B REC)**

カセットデッキのBデッキで録音できるモード表示が点灯します。  
また、録音中は点滅します。

**③IDRS インジケーター (IDRS)**

カセットデッキのAデッキとBデッキに別々のソースを録音しているときに点灯します。

**④入力モードインジケーター (INPUT)**

現在、スピーカーでおききの入力モード表示が点灯します。

**⑤ボリュームインジケーター (VOLUME)**

音量を11段階に分けて増減表示します。それと同時に、文字表示窓に1ステップずつdB表示します。

**⑥ミュートインジケーター (MUTING)**

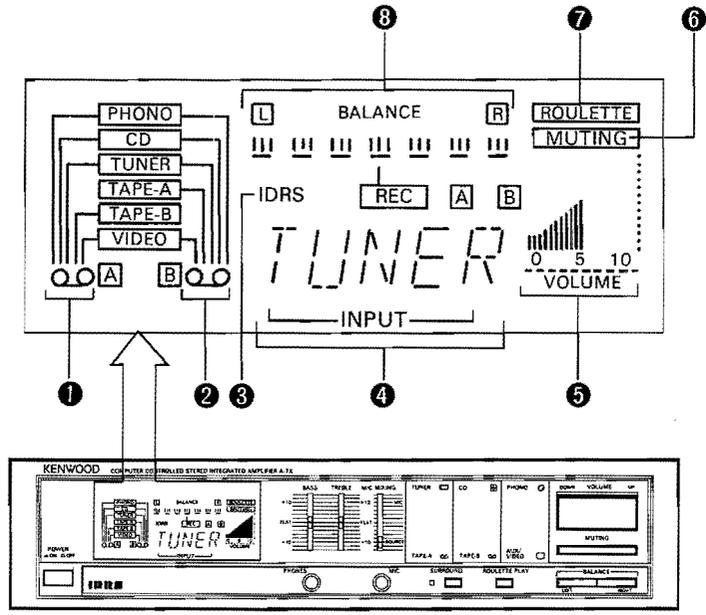
ミュートスイッチを押したときに点滅します。

**⑦ルーレットプレイインジケーター (ROULETTE)**

ルーレットプレイ中に点灯します。

**⑧バランスインジケーター**

左側L、右側Rの音量バランスを表示します。



# カセットデッキ (X-7WX) の各部の名称 とはたらき

カセットデッキは多くの機能を備えています。各スイッチ類の名称とはたらきを覚えましょう。

カセットデッキ (X-7WX) の各部の名称とはたらき

## ①カセットホルダー

## ②方向インジケーター

テープの走行方向を示すインジケーターです。フォワード方向 (表の面) で▷インジケーターが、リバース方向 (裏の面) では◁インジケーターが点灯します。

## ③ピークレベルメーター

(PEAK LEVEL METER)

録音中は録音レベルを、再生中はテープの再生レベルのピーク値を示します。

## ④操作キー

### 停止キー (□)

このキーを押すと、テープの走行が停止します。

### 巻き戻しキー (◀◀)

テープを高速で左側のリールに巻き取ります。

### 早送りキー (▶▶)

テープを高速で右側のリールに巻き取ります。

### リバース再生キー (◁)

このキーを押すと、リバース方向 (裏の面) の再生を始めます。

### 再生キー (▷)

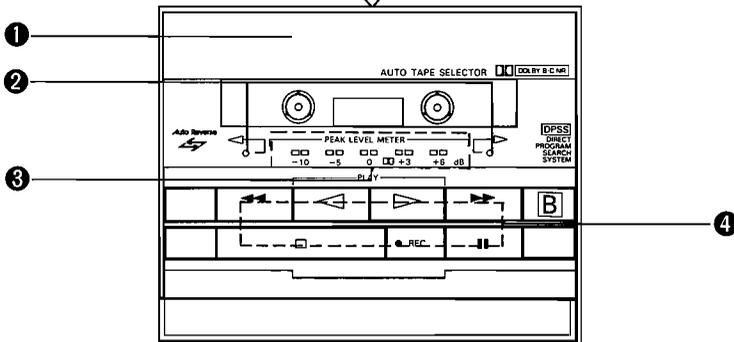
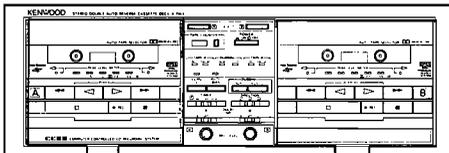
このキーを押すと、フォワード方向 (表の面) の再生を始めます。

### ポーズキー (||)

再生または録音中にこのキーを押すと、一時停止状態になります。

### 録音キー (●REC)

このキーを押すと、録音を始めます。



# カセットデッキは多くの機能を備えています。各スイッチ類

カセットデッキ(X17WX)の各部の名称とはたらき

## ①電源スイッチ (POWER)

押すと電源が入り、再び押すと電源が切れます。

## ②イジェクトキー (EJECT [A], [B])

AまたはBのキーを押すと、対応したデッキのカセットホルダーがひらきます。動作中は、キーを押さないでください。

## ③テープカウンター／リセットボタン (TAPE COUNTER)

テープの走行に応じて、数字が変わります。リセットボタンを押すと、「000」になります。(Aデッキ専用)

## ④録音インジケータ (●REC)

## ⑤ポーズインジケータ (II)

## ⑥コンピューターCDレコーディングキー／インジケータ (CCRS)

(Bデッキ専用)

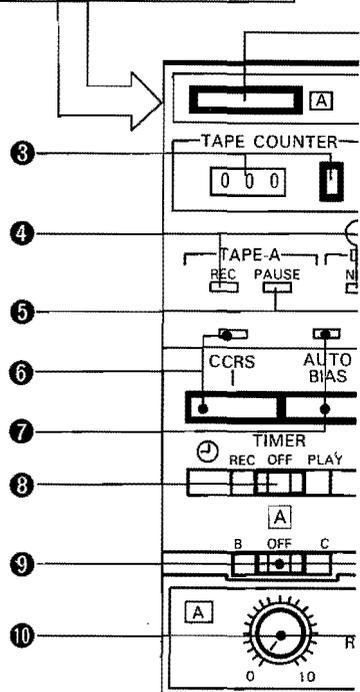
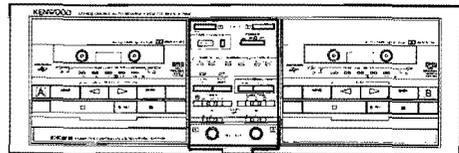
コンパクトディスクの音を最適な録音レベルで録音するときに使います。

CCRSが設定されるとインジケータが点灯します。

## ⑦自動バイアス調整キー／インジケータ (AUTO BIAS)

(Bデッキ専用)

テープに合わせて適正なバイアス調整をするときに使います。適正バイアスが設定されるとインジケータが点灯します。



## ⑧タイマースタンバイスイッチ (TIMER)

留守録音や目覚まし再生を行うときに使います。

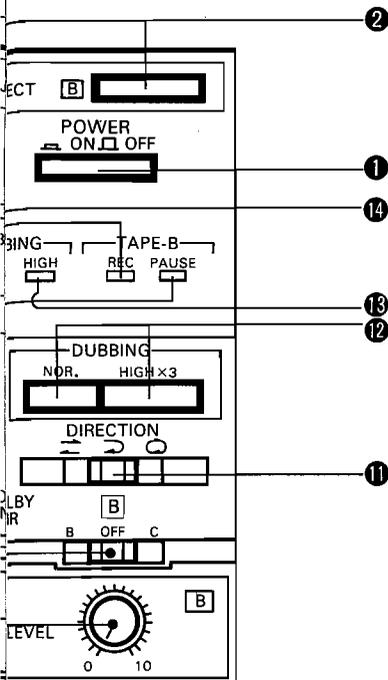
OFF：カセットデッキでのタイマースタートをしたくないとき。通常はこの位置にしてください。

PLAY：タイマー再生をするとき（目覚まし再生）

REC：タイマー録音をするとき（留守録音）

の名称とはたらきを覚えてください。

カセットデッキ(X-17WX)の各部の名称とはたらき



### ⑨ドルビーノイズリダクション

#### スイッチ(DOLBY NR[A], [B])

ドルビー録音されたテープの再生または、ドルビー録音するとき、スイッチをBかCにします。

### ⑩録音レベル調整つまみ

#### (REC LEVEL)

このつまみで、録音レベルを調整します。

### ⑪ディレクションモードスイッチ

#### (DIRECTION)

**ノーマルモード(☰)：**片面の録音/再生を行うときに、この位置にセットします。片面が終ると、テープは停止します。

**リバースモード(⇄)：**両面を往復し録音/再生するとき、この位置にセットします。

**エンドレスモード(∞)：**両面を繰返して再生するとき、この位置にセットします。

**⑬高速ダビングインジケーター**  
(HIGH)

**⑭ノーマルダビングインジケーター**  
(NOR.)

### ⑫ダビングキー (DUBBING)

#### ノーマルダビングキー (NOR.)

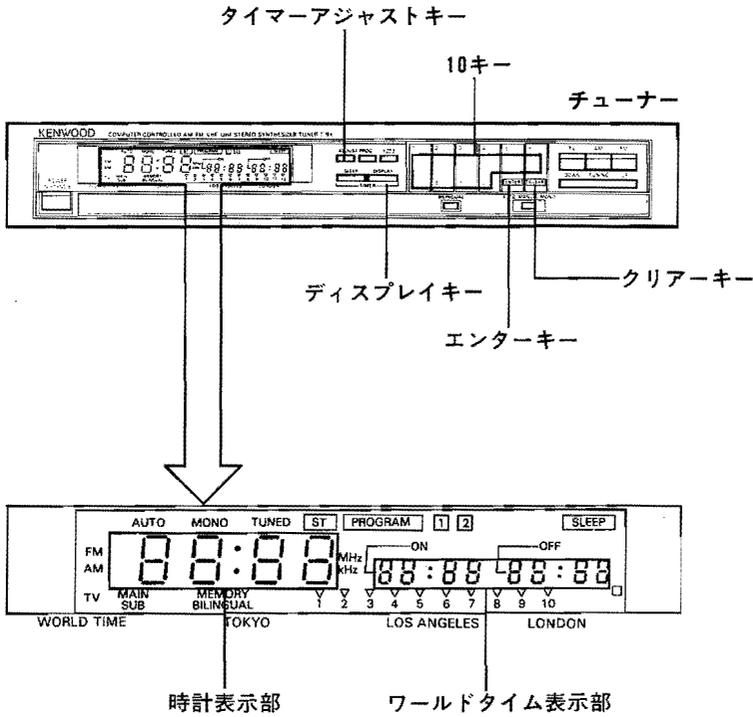
このキーを押すと、ノーマルダビングインジケーターが点灯し、AデッキからBデッキへダビングができます。

#### 高速ダビングキー (HIGH×3)

このキーを押すと、高速ダビングインジケーターが点灯し、AデッキからBデッキへ高速ダビングができます。

# チューナーの時計合わせについて

チューナーの時計合わせについて



(ロスアンゼルスとロンドンの時刻を表示します。時計合わせが終了すると自動的に設定されます。)

## 停電のときには

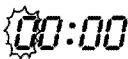
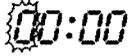
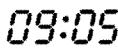
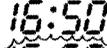
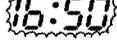
時計表示部が現在の時刻より前の時刻で点滅しているときは、停電のあったことを知らせています。

再度時計合わせをしてください。

## 時計あわせのしかた

1. チューナーの電源スイッチをONにします。
2. 時計あわせを下記の手順で行ってください。
3. ディスプレイが周波数表示のときはディスプレイキー **DISPLAY** を押して時計表示にしてから操作をしてください。

チューナーの時計合わせについて

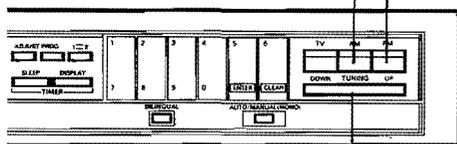
操作手順	表示窓の状態	解 説
<p>1. <b>ADJUST</b> キーを押します。</p> <p>2. 10キー (<b>1</b>~<b>0</b>) により時間、分を入力します。</p> <p>例)     <b>9</b> : <b>05</b>           <b>16</b> : <b>50</b></p>	     	<p>左端の時間表示が点滅を開始します。</p> <p>時刻は24時間表示をします。入力すると、時間表示の点滅が1つづつ右へ移動して、次に入力するところを示します。</p> <p><b>0</b><b>9</b><b>0</b><b>5</b>の順に入力します。</p> <p><b>1</b><b>6</b><b>5</b><b>0</b>の順に入力します。</p> <p>4桁を入力し終わると時間表示全体が点滅します。時計あわせをまちがえたときはクリアキーを押して2.の最初からやり直してください。</p>
<p>3. <b>ENTER</b> キーを押します。</p>	 <p style="text-align: center;">点灯</p>	<p>全体の時間表示が点灯に変わり、同時に秒のカウントを開始します。</p> <p>実際には、1と2の操作で時間と分をあわせておき、テレビやラジオの時報や、電話による時刻サービスにあわせて <b>ENTER</b> キーを押すと正確に時刻合わせができます。時刻設定中に <b>ADJUST</b> キーを押すと、1の操作の状態にもどります。</p>

# 放送をきくとき

AM, FM, TV放送を楽しめます。

放送をきくとき

チューナー



## AMまたはFM放送をきくとき

1. AMかFMを押します。

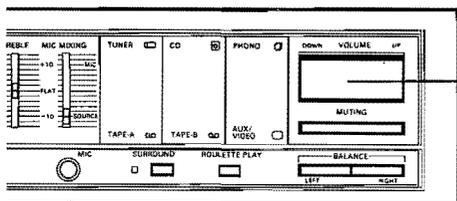
アンプのディスプレイ表示が“TUNER”になります。

2. チューニングキー (TUNIG) を押して希望する放送局をさがします。

オート/マニュアル(モノ)キー(AUTO/MANUAL(MONO))がAUTOのときは、チューニングキーを一度押すと押した方向の一番最初の放送局に同調して止まります。MANUAL(MONO)のときはチューニングキーを一度押すごとに1ステップずつ、アップまたはダウンします。また、押し続けるとキーを離すまでアップまたは、ダウンしますのでご希望の放送局に合わせてください。

3. アンプのボリュームキー (VOLUME) で音量を調節します。

アンプ



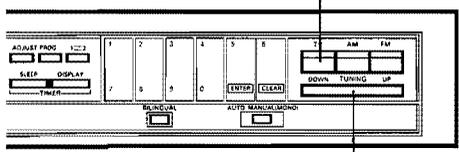
ご注意：

1. FM放送で弱い局を受信するときは、オート/マニュアル(モノ)キー(AUTO/MANUAL(MONO))でモノにしてください。
2. FMまたはAM放送を受信中ピーと言うノイズがきこえたりまた、放送局を選局しているとき、放送局のない周波数でチューンドインジケータ(TUNED)が点灯するような場合は、FMまたはAMのアンテナをシンクロコードから離すか、またはCDプレーヤーの電源をOFFにしてください。

放送をきくとき

### TV放送をきくとき

チューナー



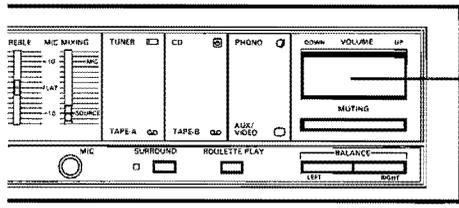
1. TVキーを押します。  
 アンプのディスプレイが“TUNER”になります。

2. チューニングキー(TUNING)を押して希望する放送局を受信します。

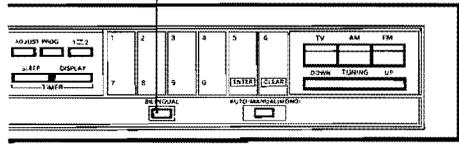
オート/マニュアル(モノ)キー(AUTO/MANUAL(MONO))でオートになっていれば(オートインジケータが点灯)ステレオ放送のときは、ステレオで楽しめます。

3. アンプのボリュームキー(VOLUME)で音量を調節します

アンプ



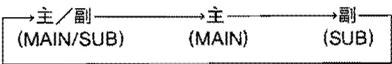
チューナー



### バイリンガルキーについて

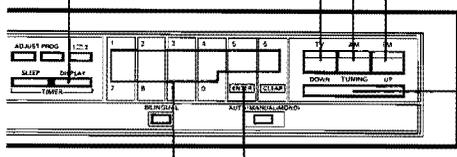
TVの音声多重放送をきくときに押します。2ヶ国放送のときは主音声(MAIN)で日本語、副音声(SUB)で外国語をきくことができます。

このキーは押すごとに



と切り換わります。

チューナー



## AM,FM,TV放送をプリセットするとき

AM, FMまたはTVそれぞれ10局ずつプリセットすることができます。

1. ディスプレイキー (DISPLAY) を押して表示窓を周波数表示にします。

TV の場合は、周波数表示がチャンネル表示となります。

2. バンドセレクトキーのAM,FMまたはTVを押します。

3. チューニングキー (TUNING) を押して放送局を受信します。

4. エンターキー (ENTER) を押します。

表示窓に“MEMORY”の文字が表われます。

5. 5秒以内にプリセットキー (1~0のキー) を押します。

表示窓のMEMORYインジケーターが消灯し、プリセットインジケーターが点灯します。同様にほかの局をプリセットします。プリセットインジケーターの10をプリセットしたいときはプリセットキーの0を押してください。

### ご注意：

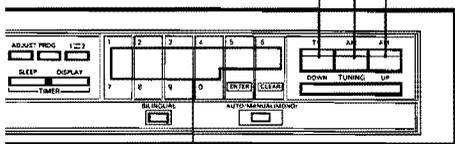
すでにプリセットされているキーに再びプリセットすると、先の放送局が消去され、新しくプリセットした放送局が記憶されます。

プリセットキー (1~0のキー) は、エンターキーから指を離した後で押してください。

エンターキーを押したままプリセットキー (1~0のキー) を押すと、他のプリセットキーにも同じ周波数が記憶されてしまうおそれがあります。

## プリセット選局のしかた

チューナー

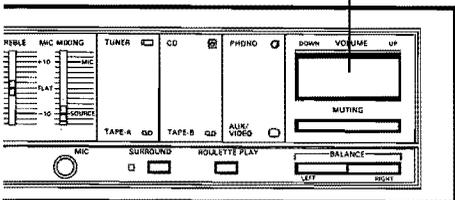


1. AM,FMまたはTVを押します。
2. プリセットキー（1～7のキー）を押します。

押されたキーにプリセットされている放送局を受信します。

3. アンプのボリュームキーで音量を調節します。

アンプ



ご注意：\_\_\_\_\_

本機は、通電バックアップ方式を採用していますので、電源スイッチ (POWER) をSTAND BYにしても、各スイッチにプリセットされた周波数は消えません。ただし、電源プラグをコンセントから抜いた場合は、3日間程度でプリセットの周波数が消えてしまいますのでご注意ください。

チューナーの電源スイッチをONにしたとき、AM,FM,TVと切り換えたとき、またはほかのソースからアンプの入力セレクターをチューナーに切り換えたとき、おのおのAM,FM,TVの最後にきいていた放送局を受信します。(ラストチャンネル表示)

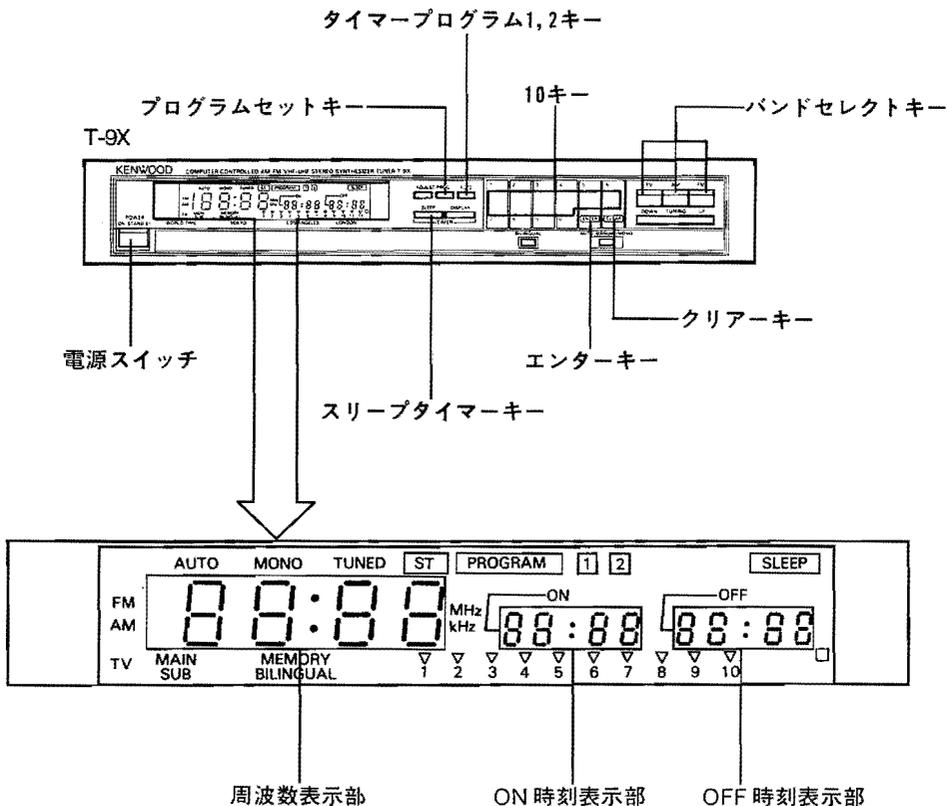
# タイマー機能について

チューナーはタイマープログラムとスリープタイマー機能をもっています。

タイマープログラムはタイマー再生、タイマー録音をするためのもので24時間内でON時刻とOFF時刻を2系統セットできます。

またタイマー動作は一度設定すると毎日同じ動作を繰り返します。

タイマー機能について



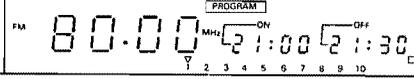
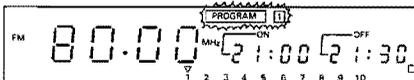
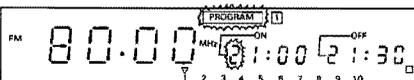
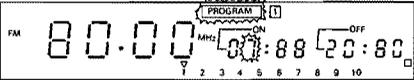
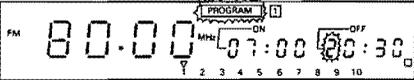
# チューナーのタイマープログラムの設定のしかた

操作の前に時計合せ（現在時刻）の調整をしてください（26ページ参照）。

タイマープログラム設定のまえにあらかじめ放送局をプリセットしておいてください。

電源を ON にして開始してください。

タイマー機能について

操作手順・解説	表示窓の状態 <small>FMS8MHzの例です。</small>
<p><b>プログラム1の設定</b></p> <p>1. プログラムセットキー（<b>PROG</b>）を押します。</p> <p>2. タイマープログラム1,2キー（<b>1</b> <b>2</b>） を押してプログラム1を選びます。 プログラム（<b>PROGRAM</b>）と<b>1</b>の文字が点滅します。 <b>1</b> <b>2</b>キーは、押すごとに<b>1</b>と<b>2</b>が交互に点滅し、それぞれ2系統のプログラムをセットできます。</p> <p>3. エンターキー（<b>ENTER</b>）を押します。 ONタイム入力まじになります。</p> <p>4. 10キー（<b>1</b>～<b>0</b>）でON時刻を入力します。 入力すると ON タイム表示の点滅が1つつ右へ移動して、次に入力するところを示します。 4桁入力し終ると ON タイム表示全体が点滅します。 まちがった時は、クリアーキーを押して入力し直してください。</p> <p>5. エンターキー（<b>ENTER</b>）を押します。 ON タイム表示全体が点灯し、ON 時刻が設定されたことを表し、次に OFF タイム表示の左端の桁が点滅を始めます。</p>	<p>※  は表示の点滅を示します。</p> <p>(初期状態)</p>  <p>(初期状態)</p>     

## 操作手順・解説

6. 10キー(1~10)でOFF時刻を入力します。

入力し終ると、OFF タイム表示全体が点滅します。入力を間違ったときはクリアキーを押して、再度 OFF 時刻の頭から入力し直すことができます。

7. エンターキー(ENTER)を押します。

OFF タイム表示全体が点灯し、OFF 時刻が設定されたことを示します。次に FM, AM, TV 表示が点滅を始めます。また、周波数表示が“----”表示になります。

8. FM, AM, TV バンドセレクトキーのいずれかを押します。

押されたバンド表示が点灯し、プリセットチャンネルインジケータが点滅します。

9. 10キー(1~10)でプリセットチャンネルを選びます。

選んだプリセットチャンネルインジケータが点滅し、あらかじめ、そのチャンネルにプリセットされている周波数が表示されます。ただし、テレビのときはチャンネル表示になります。

10. エンターキー(ENTER)を押します。

バンド表示とプリセットチャンネル表示が点灯し、全てが設定されたことを表わし、約5秒後にもとの表示にもどります。

## プログラム2の設定

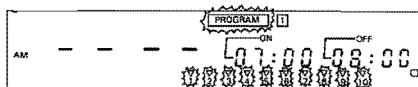
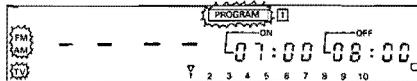
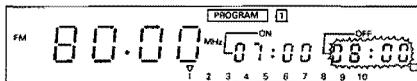
1. プログラムセットキー(PROG)を押します。

2. タイマープログラム1,2キー(1/2)を押して、プログラム2を選びます。

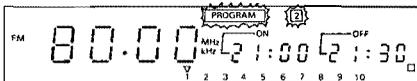
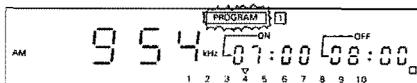
以下、プログラム1の設定と同様に設定します。

プログラム(PROGRAM)と2の文字が点滅します。

## 表示窓の状態

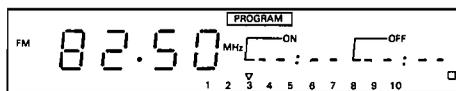


AM954kHzの例です。



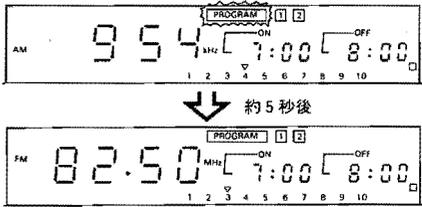
# タイマー動作をさせるとき

タイマーを動作させる場合の操作例を示します。現在の時刻を0時0分とし、FM放送で82.5MHzを受信している場合とします。



タイマー機能について

操作・解説	表示窓の状態
<p><b>プログラム1を動作させるとき</b></p> <p>いま、プログラム1には周波数が80MHzで、21:00にONし、21:30にOFFするプログラムが入っている場合とします。</p> <p><b>[1] [2]</b> キーを押しタイマー1、2インジケータの<b>[1]</b>が点灯する状態にします。</p> <p>プログラム1の内容を約5秒間表示し、プログラム1のみが動作状態となります。約5秒間の動作設定が終了すると表示窓の周波数表示が82.50MHzに戻ります。</p> <p>これで21:00に電源がONし、21:30に電源がOFFする状態となります。</p>	<p><b>プログラム1の内容</b></p> <p style="text-align: center;">↓ 約5秒後</p>
<p><b>プログラム2を動作させるとき</b></p> <p>いま、プログラム2には周波数が954kHzで7:00にONし、8:00にOFFするプログラムが入っている場合とします。</p> <p><b>[1] [2]</b> キーを押しタイマー1、2インジケータの<b>[2]</b>が点灯する状態にします。</p> <p>プログラム2の内容を約5秒間表示し、プログラム2のみが動作状態となります。約5秒間の動作設定が終了すると表示窓の周波数表示が82.50MHzに戻ります。</p> <p>これで7:00に電源がONし、8:00に電源がOFFする状態となります。</p>	<p><b>プログラム2の内容</b></p> <p style="text-align: center;">↓ 約5秒後</p>

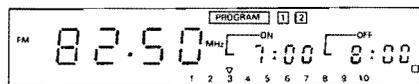
操作・解説	表示窓の状態
<p><b>プログラム1,2を動作させるとき</b></p> <p><b>[1][2]</b> キーを押しタイマー1, 2インジケータの<b>[1]</b>, <b>[2]</b>が点灯する状態にします。</p> <p>プログラム1, 2のうち現在の時刻に対して先にONするプログラム内容を約5秒間表示し、プログラム1, 2の両方が動作状態となります。いま現在時刻が0:00であるのでプログラム2のほうに先にONしますから、プログラム2の内容が約5秒間表示されます。約5秒間の動作設定が終了すると表示窓の周波数表示が82.50MHzに戻ります。</p> <p>これで7:00に電源がONし、8:00に電源がOFFとなり、さらに21:00に電源がONして、21:30に電源がOFFする状態となります。</p>	<p style="text-align: center;">プログラムの内容</p> 

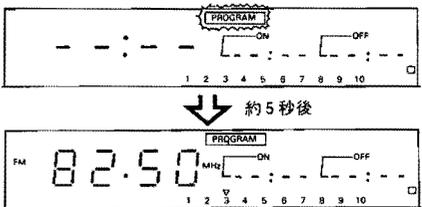
**ご注意:**

タイマー1, 2両方にプログラムされているとき、タイマー1のみを動作させるとタイマー2は動作しません。また、タイマー2のみを動作させるとタイマー1は動作しません。

## タイマーを動作させないとき

現在、FM放送で82.5MHzを受信している場合とします。



操作・解説	表示窓の状態
<p><b>[1][2]</b> キーを押し、タイマー1, 2インジケータの<b>[1]</b>, <b>[2]</b>が点灯しない状態にします。</p> <p>表示窓の周波数、時刻表示部は、すべての数字が約5秒間なくなり、タイマーは動作しない状態となります。その後、表示窓の周波数表示は82.50MHzに戻ります。これでタイマーは動作しない状態となります。</p>	

## タイマー内容を確認するとき

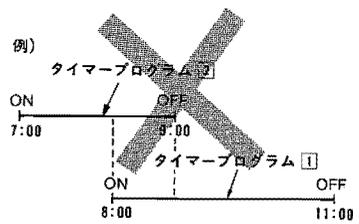
**[1][2]** キーを押すことにより、タイマー1, 2の内容を順番に繰り返し確認することができます。

タイマーの内容を確認するだけで、タイマー動作をさせたくないときは、かならず、**[1][2]** キーを押し、タイマー1, 2インジケータの**[1]**, **[2]**が点灯しない状態にしてください。

ご注意：

1. タイマー動作は、タイマー1、2インジケータの①、②が点灯しているときのみに動作します。
2. タイマーON時刻と、OFF時刻の間でプログラムキーを押したり、電源スイッチをON/OFFすると、タイマーは正常に動作しなくなります。
3. プログラム1と2は、たがいに時刻が重ならないように設定してください。  
(右図\*例\*を参照)
4. プログラム1と2を続けて動作させるときは、1分ずらして設定してください。  
(例) 8:00から1時間80:00MHzを受信し、9:00から1時間、954kHzを受信する場合、プログラム1はON時刻を8:00に、OFF時刻を8:59に設定し、プログラム2はON時刻を9:00に、OFF時刻を9:59に設定します。
5. タイマーは、動作状態に設定しておきますと、毎日同じ時刻に動作を繰り返します。毎日タイマー動作をさせる必要がない場合は、「タイマーを動作させないとき」に従って動作を停止してください。

6. タイマー動作状態(タイマー1、2インジケータの①、②が点灯している場合)で、チューナーをきいているとき、タイマーの動作時刻になるとタイマー動作となります。このとき、受信中の放送局は、タイマーにプログラムされた放送局に変わります。チューナーを録音する場合は、必ずタイマーのプログラム内容を確認してください。
7. タイマーのプログラム内容はキャンセルできません、タイマーを使用しない場合はかならず、「タイマーを動作させないとき」に従って動作を停止してください。



## スリープタイマーの設定のしかた

スリープタイマーは10分単位で1時間まで設定することができ、設定時間で電源が切れます。

操作手順・解説	表示窓の状態
<p>1. <input type="text" value="SLEEP"/> キーを1回押します。</p> <p>2. 以後、<input type="text" value="SLEEP"/> キーを押すごとに、右図のように設定されていきます。</p> <p>電源がONのときでもOFFのときでもスリープタイマーははたらきます。 電源がOFFのときは、<input type="text" value="SLEEP"/> キーが押されると、電源がONになり、最後に受信していた局を受信します。SLEEPが点灯しその下に60が表示されます。</p> <p>3. 解除するには電源スイッチをOFFにしてください。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>PROGRAM <span style="float: right;">SLEEP</span></p> <p>AM 9 54 MHz 60</p> <p style="font-size: small;">1 2 3 4 5 6 7 8 9 10</p> </div> <div style="text-align: center; margin-top: 10px;"> <p>POWER ON <span style="float: right;">POWER OFF</span></p> <p>→ 60 → 50 → 40 → 30 → 20 → 10 → 0</p> <div style="border: 1px solid black; width: 100px; height: 30px; margin: 0 auto;"></div> </div>

タイマープログラムが設定されていても、スリープタイマー動作が優先します。

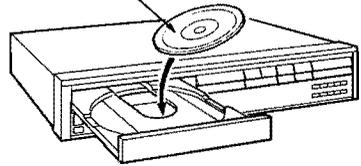
# コンパクトディスク(CD)をきくとき

まず、電源をONにして、CDプレーヤーにディスクを入れます。ディスクトレイにラベル面を上にしてディスクを入れてください。

ご注意：

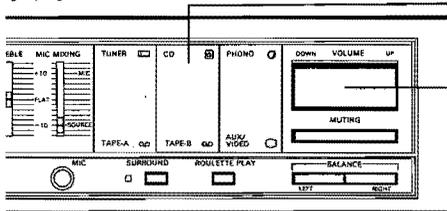
1. ディスクの表裏をまちがえないように入れてください。逆に入れると音が出ません。
2. ディスクトレイ内にはディスク以外のものを入れないでください。

ラベル面



コンパクトディスク(CD)をきくとき

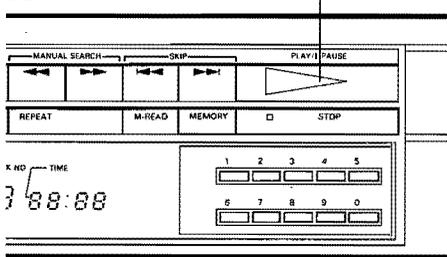
## アンプ



## 演奏するには

1. アンプのCDキーを押します。またはCDプレーヤーのプレイ/ポーズキー (PLAY/|| PAUSE) を押します。
  2. アンプのボリュームキー (VOLUME) で音量を調整します。
- 全曲演奏が終わると自動的にストップ状態 (演奏が停止) になります。

## CDプレーヤー

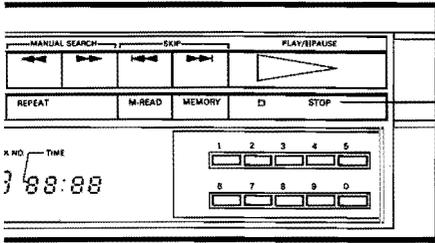


## 演奏を一時停止するには

プレイ/ポーズキー (PLAY/|| PAUSE) を押します。

- ポーズインジケターが点灯し、演奏しているところで止まります。
- もう一度プレイ/ポーズキー (PLAY/|| PAUSE) を押すと再びそこから演奏が開始されます。

## CD プレーヤー



### 演奏を停止するには

ストップキー(□STOP)を押します。

- 演奏を停止し、自動的に一曲目の頭に  
戻ります。

コンパクトディスク(CD)をきくとき

### 特定の曲からきくには

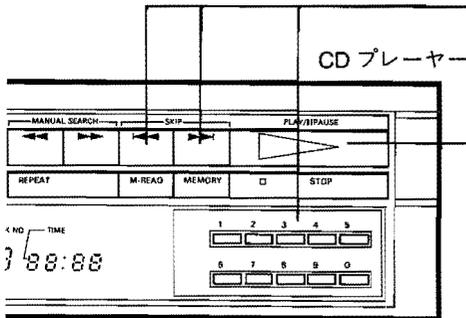
1. 選曲キー(10キー)またはスキップキー(◀◀, ▶▶)でききたい曲のトラックNo.をセットします。

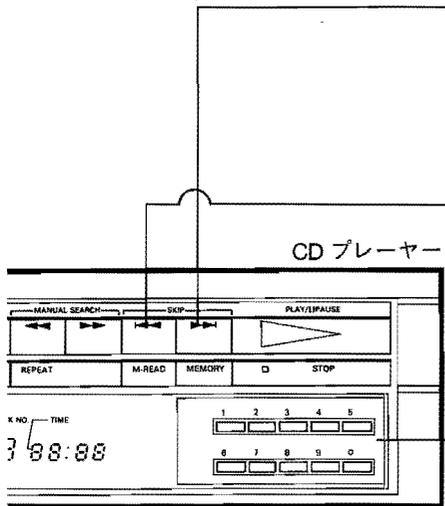
例: 8曲目をきくときは選曲キーで8を押します。または、アップキーを押して続けてトラックNo.ディスプレイを8にします。

2. プレイ/ポーズキー (PLAY/|| PAUSE) を押します。

(選曲セット後, 2秒以内に押してください)

- セットしたトラックNo.が点灯し、プレイインジケーターが点灯します。曲の頭を探し終わると演奏が始まります。
- 最後の曲が終わると自動的に一曲目の頭に戻ります。
- セットしたトラックNo.がディスクの曲数以上の場合には自動的に最終曲になります。





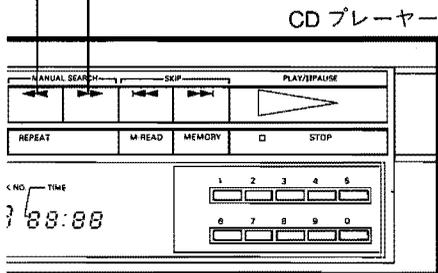
## 演奏の途中で曲の頭出しをするには

1. アップキー (▶▶) を1回押すと、演奏を中断し、先の曲の頭に進みます。
  - 最後の曲のとき押すと一曲目へ進みます。
2. ダウンキー (◀◀) は、1回押すとその曲の頭に戻ります。
  - 続けて押すとその前の曲に戻ります。
3. 選曲キー (10キー) を押すと、演奏を中断し、その曲の頭に進みます。
  - 一時停止中に操作すると選んだ曲の頭で一時停止状態となります。
  - トレイが開いたままでも選曲キーまたはアップダウンキーを押して曲No.を表示させプレイ/ポーズキー (PLAY/|| PAUSE) を押すと、トレイが閉まり選んだ曲より演奏が始まります。また、プレイ/ポーズキー (PLAY/|| PAUSE) をもう一度押しポーズインジケータを点灯させると、選んだ曲の頭で一時停止状態となります。

### 演奏の途中で早送り, 早戻しをするには

1. 早送りキー(▶▶)を押すと, 押している間早送りで演奏します。
2. 早戻しキー(◀◀)を押すと, 押している間早戻しで演奏します。

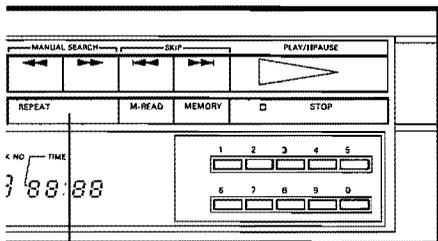
- 早送りキー(▶▶), 早戻しキー(◀◀)をはなすとその位置から通常の演奏にもどります。
- 一時停止中に, 早送りキー(▶▶), 早戻しキー(◀◀)を押すと, 早送り, 早戻しを行い, キーがはなされたところで一時停止になります。
- リピートインジケーターが点灯中は, 早送りキー(▶▶)で最後の曲の終わりまでいくと最初の曲に戻り, また, 早戻しキー(◀◀)で最初の曲の始めまでいくと, 最後の曲の終わりに戻ります。



### リピート演奏をするには

1. 演奏中にリピートキー(REPEAT)を押します。ディスク内の全曲を繰り返して演奏します。
2. このリピート演奏を解除するときは, もう一度リピートキーを押します。

CD プレーヤー

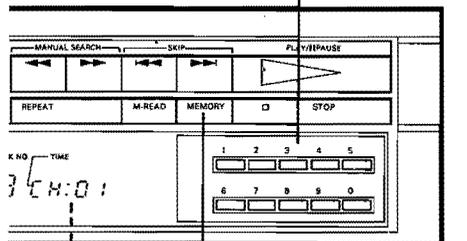


## メモリー演奏のしかた

メモリーを使うと、ディスクのお好みの曲をお好みの順番で演奏させることができます。20曲までメモリーすることができます。

コンパクトディスク (CD) をきくとき

CD プレーヤー



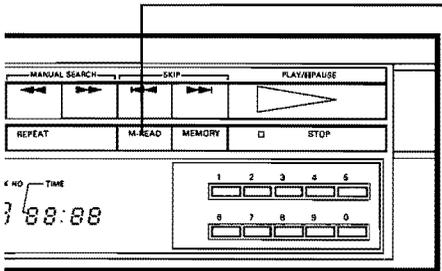
### メモリーのしかた

1. ディスクをセットします。
  2. 選曲キー(10キー)でメモリーしたいトラックNo.を選びます。
  3. メモリーキー (MEMORY) を押します。
4. 続けてメモリーするには、2. 3. を繰返し行ってください。

20曲までメモリーできます。

- トラックNo.が点灯し、CH:01(チャンネル1)に選んだ曲がメモリーされます。
- トラックNo.入力後、2秒以内にメモリーキーを押してください。
- メモリーキーを押した後、3秒たつと最初メモリーされたトラックNo.と全演奏時間が表示されます。
- トラックNo.21以上の曲を選曲してもメモリーはできませんが、全演奏時間の表示はしません。
- メモリー演奏中でも2. 3.の方法でメモリーを追加することができます。

CD プレーヤー

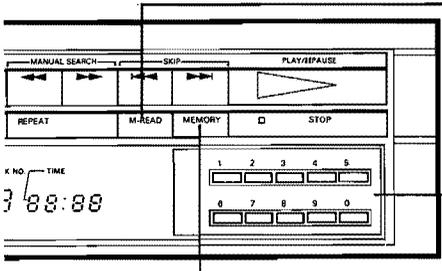


**メモリーを確認するには**

メモリーリードキー (M-READ) を押します。

- メモリーされているトラックNo.とチャンネルNo.がCH:01から順番にキーを押すごとに確認できます。
- メモリーされていないときは、メモリー表示にはなりません。
- メモリーリードキーは、選曲中はうけつけません。

CD プレーヤー



**メモリーを変更するには**

1. メモリーリードキー(M-READ)を押して、変更したいチャンネルNo.を選びます。

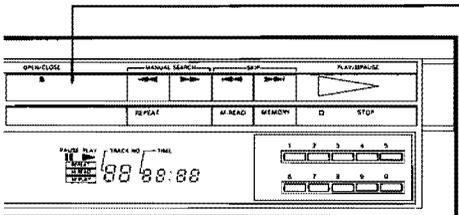
2. 選曲キー(10キー)でメモリーしたいトラックNo.を選びます。

トラックNo.の変更は、2秒以内に押してください。

3. メモリーキー(MEMORY)を押します。

- 演奏中のチャンネルNo.のメモリー変更はできません。

CD プレーヤー

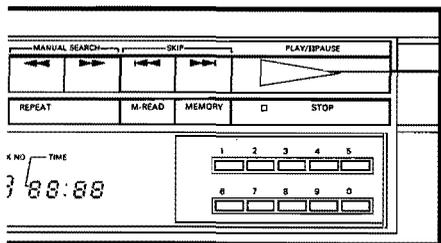


**メモリーを消すには**

開閉キー (OPEN/CLOSE) キーを押します。

- すべてのチャンネルメモリーが消えます。
- 電源を切ったときもメモリーは消えます。特定のチャンネルNo.だけを消すことはできません。

CD プレーヤー

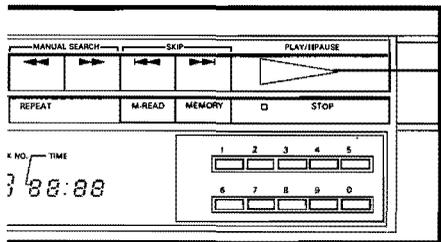


メモリー演奏するには

1. 42ページの“メモリーのしかた”に従ってセットします。
2. プレイ/ポーズキー (PLAY/PAUSE) を押します。

- メモリー演奏中はメモリープレイインジケーターが点灯します。
- メモリーされているチャンネルだけ演奏します。最後のチャンネルの演奏が終わるとストップ状態になります。
- メモリー演奏中は、自動的に曲間を約4秒とります。

CD プレーヤー

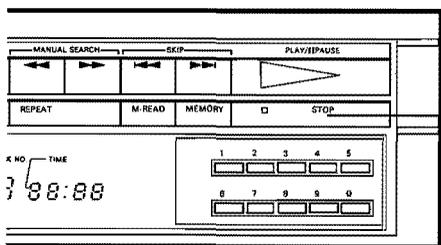


メモリー演奏を一時停止するには

プレイ/ポーズキー (PLAY/PAUSE) を押します。

- ポーズインジケーターが点灯し、演奏しているところで止まります。
- もう一度プレイ/ポーズキーを押すと再びそこから演奏が開始されます。

CD プレーヤー

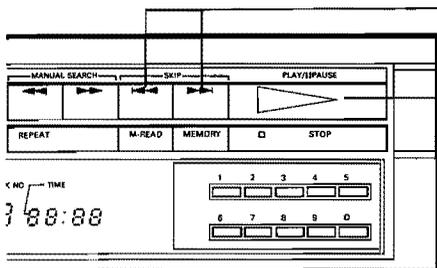


メモリー演奏を停止するには

ストップキー (STOP) を押します。

- 演奏を停止し、自動的に CH:01にメモリーされた曲の頭に戻ります。

CD プレーヤー



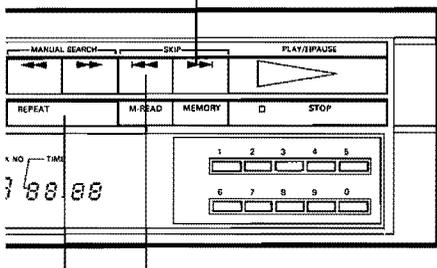
メモリーされた特定の曲から  
きくには

1. アップキー (▶▶) またはダウンキー (◀◀) を押し、ご希望のチャンネルを呼び出します。
2. プレイ/ポーズキー (PLAY/||PAUSE) を押します。

メモリー演奏の途中で曲の頭出  
しをするには

1. アップキー (▶▶) を押すと、演奏を停止し、先のチャンネルに進みます。
  - 最後のチャンネルのとき押すと再び最初のチャンネル (CH:01) へ進みます。
2. ダウンキー (◀◀) を押すと演奏を停止し、現在演奏しているチャンネルの頭に戻ります。
  - 続けて押すとその前のチャンネルに戻ります。

CD プレーヤー



メモリーリピート演奏をするに  
は

1. メモリー演奏中にリピートキー (REPEAT) を押します。
  - メモリーされた全曲を繰り返して演奏します。
2. メモリー演奏を解除するにはもう一度リピートキー (REPEAT) を押します。

# カセットテープをきくとき

まず、カセットデッキのタイマースタンバイスイッチをOFFにセットし、電源をONにします。

カセットテープをきくとき

テープ再生のしかた(A,Bデッキとも同じです)

1. イジェクトキー (EJECT) を押します。

カセットホルダーにおききになるカセットテープをテープ走行面を下にしてセットします。

カセットホルダーを閉じます。

2. カセットテープの録音内容に合わせてドルビーNRスイッチを切り換えます。

ドルビーBで録音されたテープは“Bの位置”ドルビーCで録音されたテープは“Cの位置”ドルビー録音されていないテープは“OFF”でおききください。

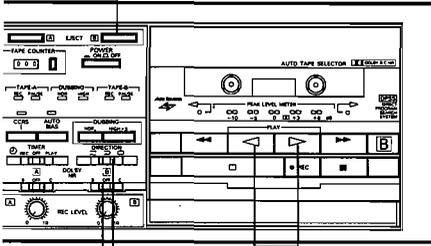
3. ディレクションモードスイッチ (DIRECTION) をお好みに合わせてセットします。

4. 再生キー (▷) かリバース再生キー (◁) を押します。または、アンプのテープキー (TAPE) を押します。

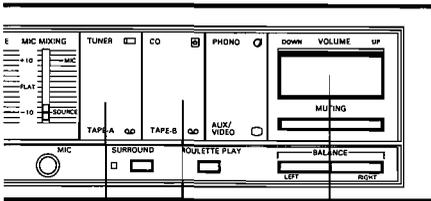
アンプで操作する場合、Aデッキ再生はアンプのTAPE A、Bデッキ再生はアンプのTAPE Bを押してください。

5. アンプのボリュームキー (VOLUME) で音量を調節します。

カセットデッキ



アンプ



## リレープレイのしかた

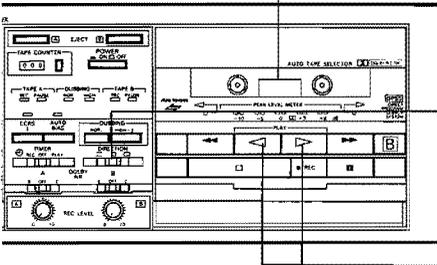
本機は、A B 両デッキに入れたカセットテープを繰り返し交互に再生ができます。

1. A, B 両デッキにカセットテープを入れます。
2. ディレクションモードスイッチを“ $\Leftarrow$ ”か“ $\Rightarrow$ ”にセットします。
3. A, B いずれかのデッキの再生キー(▷)か、リバース再生キー(◁)を押します。または、アンプのTAPEキーを押します。

ディレクションスイッチが $\Leftarrow$ のときは片面の再生が終わると巻き戻され、同時に他方のデッキが再生を始めます。ディレクションスイッチが $\Rightarrow$ のときは、リバース方向(裏の面)の再生が終わると他方のデッキが再生を始めます。

以後連続して、リレープレイを行います。

カセットデッキ

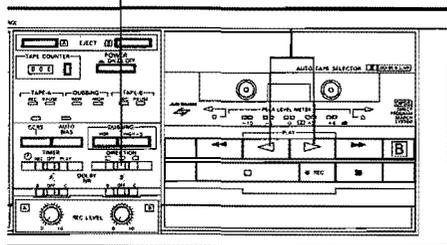


カセットテープをきくとき

### リレープレイのご注意：

1. A B 両デッキにテープを入れて再生キー(▷)またはリバース再生キー(◁)を押すと自動的にリレープレイモードになります。
2. ディレクションモードスイッチが“ $\Leftarrow$ ”の位置のときは、リレープレイはしません。
3. 片方のデッキのみを再生モードにするときは、他方のデッキにテープを入れないでください。
4. テープは初めに両方とも巻戻した状態にしてください。A デッキ, B デッキともテープエンドの位置でリレープレイを開始しますと正しく動作しません。
5. 片方のテープの巻戻し時間以内で再生を終えてしまうような極端に短いテープをもう一方のテープとしてお使いになりますと、正しく動作しません。

カセットデッキ

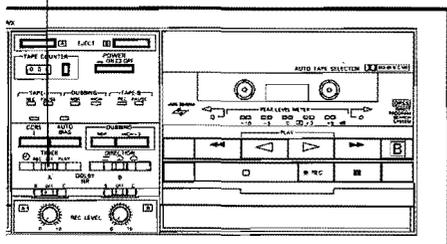


### AデッキまたはBデッキのエンドレスの再生のしかた

1. ディレクションモードスイッチを( )にします。
2. A, Bいずれかのデッキの再生キー(▷)かリバース再生キー(◁)を押します。
3. そのテープの両面を繰り返し再生します。

### タイマー再生のしかた

カセットデッキ



1. “チューナーのタイマープログラムの設定のしかた(33ページ)”に従ってチューナーのタイマーをセットします。
2. カセットデッキのタイマースタンバイスイッチをPLAYにします。
3. カセットテープをセットします。
4. チューナーのタイマーON時刻になると、テープが再生されます。

ご注意：

A, B両デッキにカセットテープを入れて、タイマー再生を行ないますと、Aデッキから再生を始めディレクションモードスイッチが“ ”または“ ”のときは自動的にリレプレイとなります。

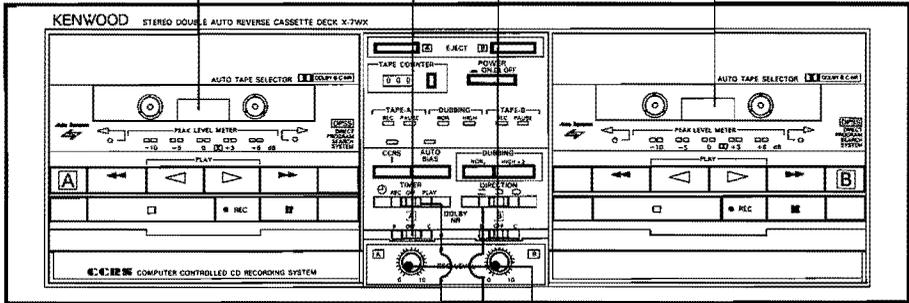
# テープ録音のしかた

デュアルカセットデッキは、Aデッキ、Bデッキ両方で録音することができます。

カセットデッキを次のようにセットしておきます。

録音できるカセットテープ  
をセットします。

ドルビー録音するときは  
BがCにセットします。



タイマースタンバイスイッチをOFFにします。

片面録音のときは →  
両面録音のときは ⇄  
にディレクション  
モードスイッチを  
セットします。

通常は、録音レベルを中央にセットします。

## 録音レベルのセットのしかた

1. 録音したいソースを演奏します。
2. ポーズキー(II)と録音キー(● REC)を同時に押して録音一時停止状態にします。
3. ピークレベルメーターをみながらメーターの+6dBが時々灯す

る程度に録音レベル調整つまみを調整します。

※通常は録音レベル調整つまみを中央に合せておきますと適正なレベルが得られます。

## 自動バイアス調整(AUTO BIAS) (Bデッキ専用)

Bデッキに録音可能なテープを入れ自動バイアス調整(AUTO BIAS)を押すと約50秒間でそのテープに最適なバイアス値が設定されます。

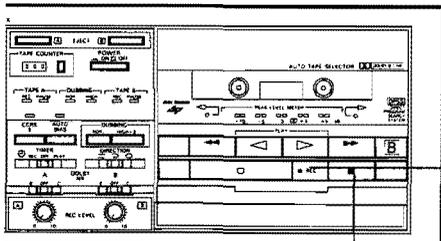
調整中は、インジケーターが点滅し、調整が終了すると、点灯に変わります。(調整中の動作は、①録音状態、②巻き戻し、③再生状態、④巻き戻しとなり停止します。)

ご注意：

1. A・Bデッキとも停止状態のとき以外は動作しません。

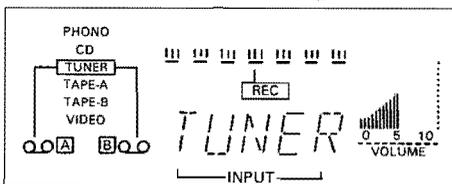
2. 調整中はAデッキは動作しません。また、Bデッキもストップキー以外は動作しません。
3. 調整中にストップキーを押すと、動作は中止され停止状態になります。
4. バイアス設定は、電源を切るかテープを交換すると解除されます。また電源を入れるとバイアス設定は、標準値に設定されます。
5. テープの残量が少ない場合オートバイアスが途中で解除されることがあります。

### カセットデッキ



Bデッキ側です。

### アンプの表示窓



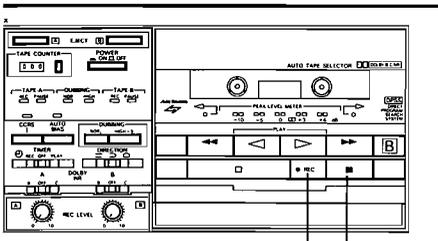
録音中は録音側のインジケーターが点滅します。

(「←→」は表示の流れる方向を表わしています。)

### チューナーの録音のしかた (A,Bデッキとも同じです。)

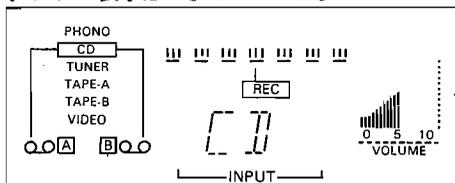
1. アンプの入力切換スイッチ (INPUT SELECTOR)のチューナー(TUNER)を押します。
2. 録音キー(●REC)を押します。  
アンプの表示窓のバランスインジケーター (BALANCE) が左右に流れるように点滅します。
3. 録音を一時停止するときはポーズキー(III)を押します。  
録音を再開するときは録音キー (●REC) を押します。

## カセットデッキ



Bデッキ側です。

### アンプの表示窓



録音中は録音側のインジケーターが点滅します。

（←→は表示の流れる方向を表わしています。）

## CDプレーヤーの録音のしかた (A,Bデッキとも同じです。)

1. CDプレーヤーのプレー/ポーズキー (PLAY/||PAUSE) を2度押します。

CDプレーヤーは一時停止状態になりアンプの入力モードインジケーター (INPUT) がCDに切り替わります。

2. 録音キー (●REC) を押すすぐにCDプレーヤーのプレイ/ポーズキー (PLAY/||PAUSE) を押します。

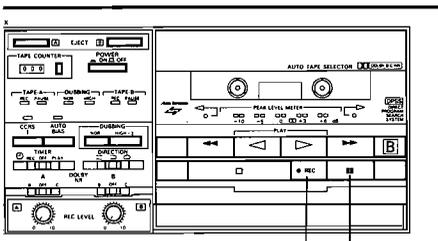
アンプの表示窓のバランスインジケーター (BALANCE) が左右に流れるように点滅します。

3. 録音を一時停止するときは、ポーズキー (||) を押します。

録音を再開するときは、録音キー (●REC) を押します。

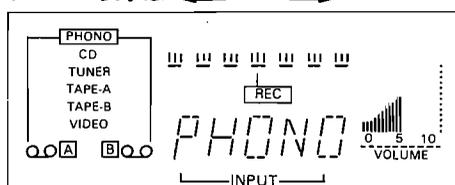
テープ録音のしかた

## カセットデッキ



Bデッキ側です。

### アンプの表示窓



録音中は録音側のインジケーターが点滅します。

（←→は表示の流れる方向を表わしています。）

## レコードの録音のしかた (A,Bデッキとも同じです。)

1. レコードプレーヤーのプレイ/カットキー (PLAY/CUT) を押します。

アームが動きアンプの入力モードインジケーター (INPUT) がPHONOになります。

2. アームがレコード盤におり始めたところで録音キー (●REC) を押します。

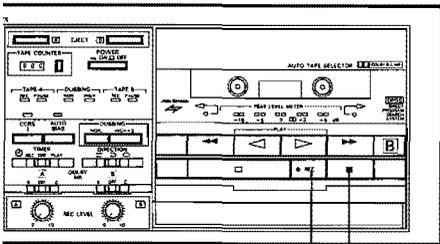
アンプの表示窓のバランスインジケーター (BALANCE) が左右に流れるように点滅します。

3. 録音を一時停止するには、ポーズキー (||) を押します。

録音を再開するには録音キー (●REC) を押します。

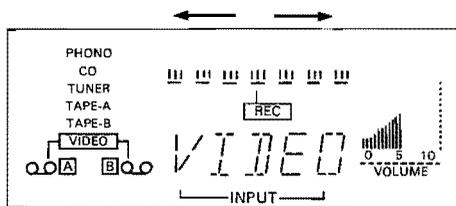
テープ録音のしかた

### カセットデッキ



Bデッキ側です。

### アンプの表示窓(VIDEOの例)



録音中は録音側のインジケーターが点滅します。

(←→は表示の流れる方向を表わしています。)

### 通常の録音のしかた

(A,Bデッキとも同じです。)

1. 録音したいソースに合わせてアンプの入力切換スイッチを押しソースを演奏します。
2. 録音キー(●REC)を押します。  
アンプの表示窓のバランスインジケーター(BALANCE)が左右に流れるように点滅します。
3. 録音を一時停止するときは、ポーズキー(II)を押します。  
録音を再開するときは録音キー(●REC)を押します。

## リレー録音のしかた

本機は、A、B両デッキに連続して録音することができます。クラシック音楽等の長時間連続録音に大変便利です。

1. A、B両デッキに、録音可能なテープを入れます。
2. ディレクションモードスイッチを“”または“”にします。
3. 録音したいソースに合わせてアンプの入力切換スイッチを押します。
4. A、Bいずれかのデッキの録音キー（●REC）を押します。
5. 他方のデッキの録音キー（●REC）とポーズキー（||）を同時に押し、録音一時停止状態にします。

（このとき、アンプのTAPE-A、TAPE-B録音モードインジケータが両方もとも、同一であることを確認してください。）

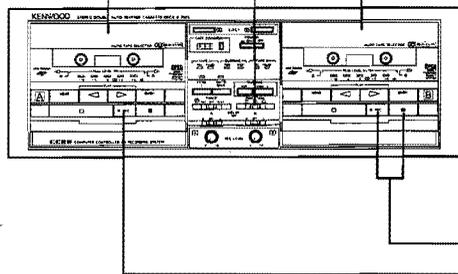
録音レベルはそれぞれの録音レベル調整つまみで調整してください。ディレクションモードスイッチがのときは、片面の録音が終ると他方のデッキが録音を始めます。また、ディレクションモードスイッチがのときは、リバース方向（裏の面）の録音が終ると他方のデッキが録音を始めます。

録音が終わった方のデッキに新しいカセットテープをセットして録音一時停止状態にすることにより、何度でも連続して録音することができます。

ご注意：

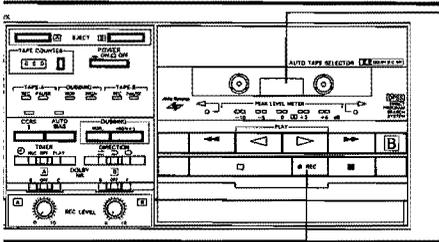
ディレクションモードスイッチが“”になっているとリレー録音にはなりません。

カセットデッキ



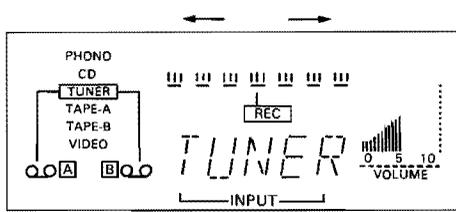
テープ録音のしかた

### カセットデッキ



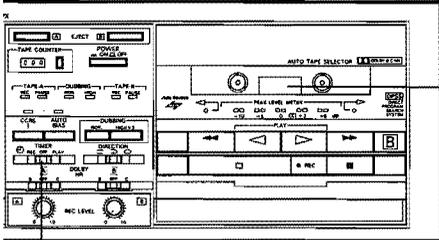
Bデッキ側

### アンプの表示窓(チューナーの例)



同一であるか確認します。(「←→」は表示の流れる方向を表わします。)

### カセットデッキ



Bデッキ側です。

ご注意：――

1. ディレクションスイッチが「←→」になっているとリレー録音にはなりません。
2. 録音使用後は、タイマースタンスイッチを必ずOFFの位置にしてください。

## 同じソースをA, Bデッキ両方で録音する場合

1. A, Bデッキに録音可能なカセットテープをセットします。
2. 録音したいソースに合わせてアンプの入力切換えスイッチを押しソースを演奏します。
- このときアンプのテープ録音モードインジケータがテープA (TAPE-A), テープB(TAPE-B)とも同一であることを確認してください。
3. A, Bデッキの録音キー(●REC)を押します。

アンプの録音モードインジケータが点滅し、録音が始まります。

## チューナーでタイマー録音をする場合

1. カセットテープをAデッキまたはBデッキにセットします。
2. チューナーのタイマープログラムの設定のしかた(33ページ)に従ってチューナーのタイマーをセットします。
3. タイマースタンスイッチをRECにします。
4. チューナーの電源スイッチをOFFにします。
5. チューナーのタイマーON時刻に自動的に録音が始まります。

A, B両デッキにカセットテープをセットしておきますと自動的にAデッキからのリレー録音になります。

# シンクロ録音

CD プレーヤーまたはレコードプレーヤーの音をテープに録音するとき、CD プレーヤーまたはレコードプレーヤーの動作に合わせてカセットデッキの録音動作をコントロールすることができます。

CD プレーヤーとのシンクロ録音のしかた(A, Bデッキとも同じです。)

## ● CD プレーヤーから A デッキに録音する場合

1. アンプの入力切換スイッチを CD にします。
2. A デッキに録音可能なテープをセットします。
3. ディレクションモードスイッチを“**二**”または“**三**”にします。
4. ドルビー録音する場合は、ドルビー NR スイッチを B または C にセットします。
5. A デッキのポーズキー(■)を押しながら録音キー(●REC)を押します。
6. CD プレーヤーのプレイ/ポーズキー(PLAY/■PAUSE)を押します。

CD プレーヤーの演奏開始と同時にカセットデッキは録音を開始します。CD プレーヤーの演奏が終わるとカセットデッキは約4秒間の無録音部分を作って停止します。

7. シンクロ録音で CD プレーヤー演奏中にプレイ/ポーズキー(PLAY/■PAUSE)を押して一時停止状態にするとカセットデッキは、約4秒間の無録音部分を作って録音一時停止状態になります。
8. 再び CD プレーヤーのプレイ/ポーズキー(PLAY/■PAUSE)を押して CD の演奏を開始するとカセットデッキは録音を再開します。
9. 途中で録音を中止したいときは、CD プレーヤーのストップキー(□)を押します。CD プレーヤーの演奏が停止すると同時にカセットデッキは、約4秒間の無録音部分を作って停止します。

レコードプレーヤー(別売)とのシンクロ録音のしかた(A, Bデッキとも同じです。)

## ●レコードプレーヤーから A デッキに録音する場合

1. アンプの入力切換スイッチを PHONO にします。
2. ~5. は左記の CD プレーヤーと同じ操作です。
6. レコードプレーヤーのプレイ/カットキー(PLAY/CUT)を押します。
7. レコードプレーヤー演奏中にキューイングキー(CUEING)を押して一時停止状態にするとカセットデッキは、約4秒間の無録音部分を作って録音一時停止状態になります。
8. 再びレコードプレーヤーのキューイングキー(CUEING)を押して演奏を開始するとカセットデッキは、録音を再開します。
9. 途中で録音を中止したいときはレコードプレーヤーのプレイ/カットキー(PLAY/CUT)を押します。レコードプレーヤーの演奏が停止すると同時にカセットデッキは約4秒間の無録音部分を作って停止します。

## 便利な機能 DPSS (ダイレクトプログラムサーチシステム)

本機は DPSS 機能により、操作キーで指示を与えると、次のような便利な使いかたができます。

1. 飛越選曲
2. 一曲リピート再生
3. 巻き戻し再生
4. リ・レックスタンバイ
5. ダッシュ & <sup>ア</sup>プレイ

### ご 注 意

DPSS 機能は、曲と曲の間の 4 秒間以上の無録音部分を検出して働きます。

従って、次のようなテープは正常に動作しませんのでご注意ください。

1. 会話、落語などで音声は、4 秒位、途切れるテープ
2. クラシック音楽など、曲の中で極端にレベルの低い部分、または無録音部分があるテープ
3. 曲間に大きな雑音などが録音されているテープ
4. 曲間が約 4 秒以下のテープ
5. 低い録音レベルで録音されたテープ

## ARM(オートレックミュート)無録音部分(曲間)のつくりかた (A, B デッキとも同じです)

DPSS 機能を、100%発揮させるためには、録音時における無録音部分、つまり曲間をいかにうまくつくるかが、重要なポイントになります。録音キー(●REC)を使うと、この曲間を簡単な操作で実現させることができます。FMエアチェックの途中で、コマーシャルや不要な会話を削除するときや、ダビングしながら編集を行うときに大変便利です。

### 1. 録音キー(●REC)を2回続け て押します。

4秒間の無録音部分を作り、録音一時停止状態になります。

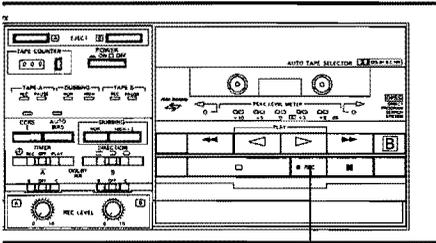
### 2. 4秒以上の無録音部分をつく るときは、録音キー(●REC)を 2回押し、2回目を押し続けます。

押しただけの無録音部分がつくれます。指を離すと、録音一時停止状態になります。

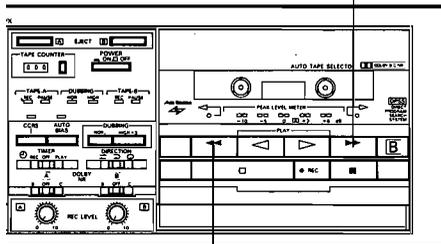
また、4秒以内にポーズキー(II)を押すと、録音一時停止状態になります。

### 3. 録音中に無録音部分をつくる には録音キー(●REC)を1回押 します。押された所から4秒間 の無録音部分を作り録音一時停 止状態になります。

カセットデッキ



カセットデッキ



先の曲の飛越選曲のしかた (A, Bデッキとも同じです)

現在きいている曲より何曲か先の曲 (まだ再生していない曲) をききたいとき、次の手順で行います。

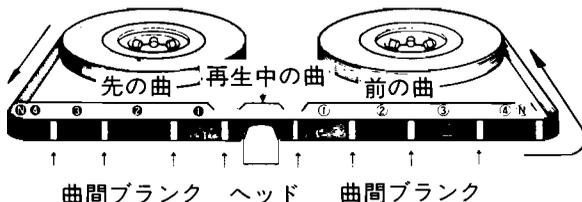
1. フォワード方向(表の面)の再生中は、早送りキー (▶▶) を押します。

押した回数だけ飛越選曲します。(16曲先まで) たとえば、おききになりたい曲が現在再生中の曲の次から数えて5曲目にあるときは、早送りキー (▶▶) を5回押します。

●先の曲を飛越選曲する場合、たとえば③曲では早送りキー (▶▶) を3回押します。したがって⑤曲では、5回押します。以下同じ要領です。

2. リバース方向(裏の面)の再生中は、巻き戻しキー (◀◀) を押します。

押した回数だけ飛越選曲します。  
(16曲先まで)



## 前の曲の飛越選曲のしかた(A, Bデッキとも同じです。)

現在きいている曲より何曲か前の曲(再生し終わった曲)をききたいとき、次の手順で行います。

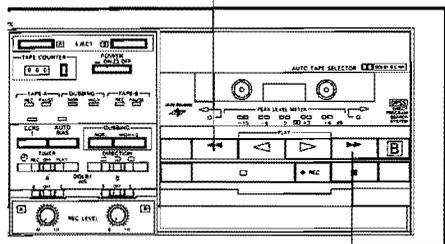
1. フォワード方向(表の面)の再生中は、巻き戻しキー(◀◀)を押します。

たとえば、おききになりたい曲が再生中の曲も含めて4曲前にあるときは、巻き戻しキー(◀◀)を4回押します。したがって、現在きいている曲の頭出しを行うときは、1回押します。

●前の曲を飛越選曲する場合、たとえば③曲では、再生中の曲も数えて、巻き戻しキー(◀◀)を4回押します。したがって⑤曲では、6回押します。以下同じ要領です。

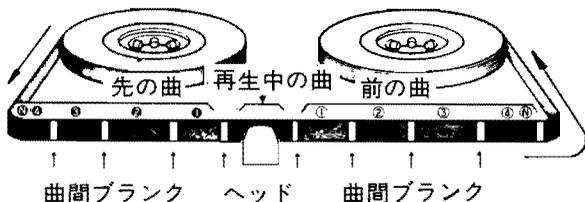
2. リバース方向(裏の面)の再生中は、早送りキー(▶▶)を押します。

押した回数だけ飛越選曲します。(16曲前まで)

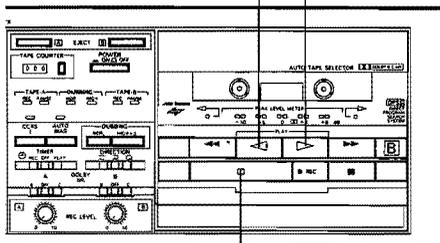


### ご注意:

飛越選曲は、ディレクションモードスイッチがリバースモード(⇐)または、エンドレスモード(↻)にセットされていると、2面(往復)を行います。曲が始まってすぐ巻き戻しキー(◀◀)をまたは曲の終り近くで早送りキー(▶▶)を押した場合は1曲飛越してしまうことがあります。



カセットデッキ

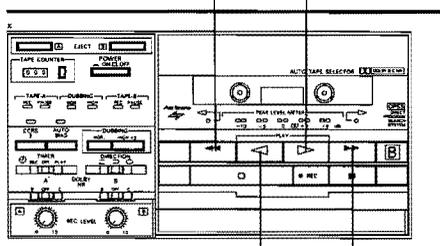


一曲リピート再生のしかた(A, Bデッキとも同じです)

現在きいている曲を、繰り返しきくときに使用します。カラオケの練習などに利用できます。

1. 再生キー (▷) かリバース再生キー (◁) を2度押します。
2. おききになりたい曲が再生中のときはフォワード方向再生中は再生キー (▷) を、リバース方向再生中はリバース再生キー (◁) を、もう一度押します。
3. 一曲リピート再生を16回繰り返した後、通常の再生に戻ります。
4. 1曲リピート再生を解除するときは、停止キー(□)を押します。

カセットデッキ



巻き戻し再生のしかた(A,Bデッキとも同じです)

巻き戻しキー (◀◀) と再生キー (▷), または早送りキー (▶▶) とリバース再生キー (◁) を同時に押すと、テープを最初の位置まで巻き戻し、さらに1曲目の開始位置まで早送りしてプレー状態になります。

1. フォワード方向 (表の面) をきくときは、再生キー (▷) と巻き戻しキー (◀◀) を同時に押します。
2. リバース方向 (裏の面) をきくときは、リバース再生キー (◁) と早送りキー (▶▶) を同時に押します。

リ・レックスタンバイ(録音とり直し)について(A, Bデッキとも同じです。

まちがえて録音を開始してしまったときなど、録音を開始した後、最初から録音をとり直したいとき使用します。

[テープは、録音開始部分のまえに4秒間以上の無録音部分が必要です。]

1. フォワード方向(表の面)(▷)の録音走行中は、巻き戻しキー(◀◀)を押します。

録音は中止され、録音開始位置まで戻り前の曲との間に約2秒間の曲間無録音部分を送った後、停止します。

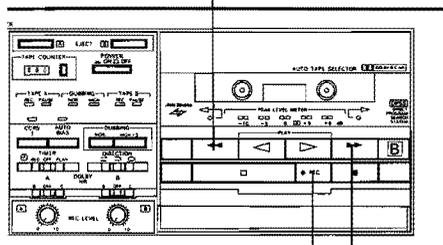
2. リバース方向(裏の面)(◁)の録音走行中は、早送りキー(▶▶)を押します。

3. 録音を再開するときは、まず録音キー(●REC)を続けて2回押してオートレックミュート(ARM)の状態にして4秒間の無録音部分を作ります。

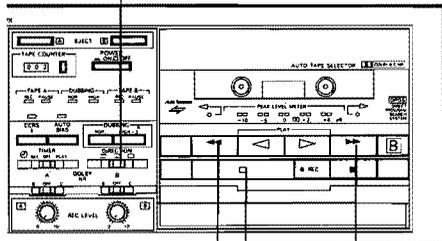
4. その後、再度録音キー(●REC)を押しますと、録音再開となります。

ご注意：録音開始直後(約3秒以内)にこの機能を使用しますと、正常に働かない場合がありますのでご注意ください。

カセットデッキ



カセットデッキ



### クイックリバースについて

再生、または録音の際、音切れを短くおさえるためにフォワード方向からリバース方向へクイックリバースします。

再生キー(▷)または録音キー(●REC)を押して10秒以内はクイックリバースは働きませんので、テープの終わり近くで、これらのキーを押しますとテープの終わりまで行き、オートリバースします。

### ダッシュ & プレイ アンド

(A, Bデッキとも同じです。)

早送りキー(▶▶)と巻き戻しキー(◀◀)を同時に押すとテープの片面または両面を約10秒以上の無録音部分がある場合その部分を早送りしながら繰り返して再生することができます。

1. ディレクションモードスイッチを“”または“”にします。

2. 早送りキー(▶▶)と巻き戻しキー(◀◀)を同時に押します。

約10秒間以上の無録音部分を早送りしながら再生します。

ディレクションモードスイッチが“”のときは、片面を8回繰り返しかえし再生した後停止します。ディレクションモードスイッチが“”のときは、両面を連続16面再生した後停止します。

3. ダッシュ & プレイを解除するには、停止キー(□)を押します。

ご注意：

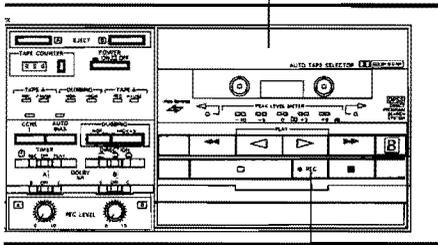
1. テープの再生方向は方向インジケータに表示されている方向です。
2. 無録音部分が約10秒以上でないと正しく動作しません。
3. ディレクションモードスイッチが、“”にセットされて、カセットテープがA, B両デッキに入っている場合は片方のデッキのダッシュ & プレイが、終了すると同時に他のデッキがダッシュ & プレイ動作になります。

# 別々のソースをそれぞれ同時に録音するとき IDRS (アイソレーテッド デュアル レコーディング システム)

本機は IDRS 機能により、従来のダブルカセットデッキのもつ“長時間録音”，“同じソースの2巻同時録音”機能をさらに進化，発展させ，次のような便利な使いかたができます。

別々のソースをそれぞれ同時に録音するとき IDRS

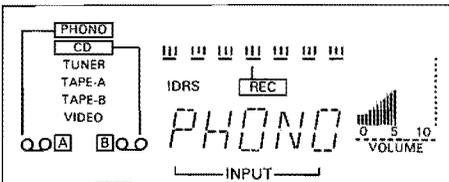
カセットデッキ



Bデッキ側です。

アンプの表示窓

(AデッキレコードプレーヤーとBデッキCDプレーヤーの例です。)



録音中は録音側のインジケータが点滅します。

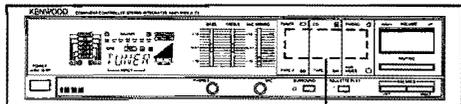
←→は表示の流れる方向を表わしています。

## 別々のソースをそれぞれ同時に録音するとき

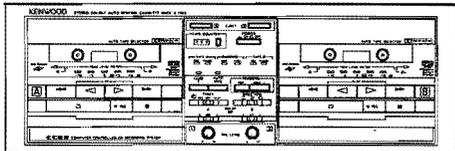
1. Aデッキ，Bデッキに録音可能なカセットテープをセットします。
2. Aデッキに録音したいソースをアンプの入力モード切換スイッチで選び，Aデッキの録音キー(●REC)を押します。
3. Aデッキは，そのソースの録音を開始します。  
アンプの録音モードインジケータが点滅し，バランスインジケータ(BALANCE)が左右に流れます。
4. 次にBデッキに録音したいソースをアンプの入力切換スイッチで選び，Bデッキの録音キー(●REC)を押します。

Bデッキは，そのソースの録音を開始し，アンプのIDRSインジケータが点灯しアンプの録音モードインジケータが点滅し，バランスインジケータが左右に流れます。

## アンプ



## カセットデッキ

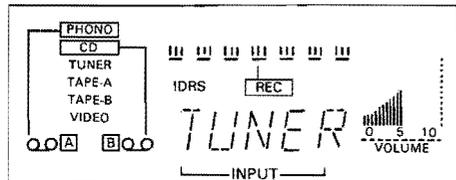


### <例>

Aデッキにプレーヤーの音をBデッキにCDの音を録音しながらチューナーを聞くとき、アンプの表示窓は下図のようになります。

また録音中はバランスインジケーター(BALANCE)が左右に流れるように点滅します。

### アンプの表示窓



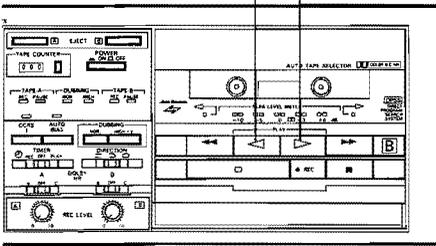
録音中は録音側のインジケーターが点滅します。

← → は表示の流れる方向を表わしています。

A, Bデッキにそれぞれ録音しながら、録音中のソースとは別のソースをスピーカーからきくとき

- A, Bデッキに録音中に、ききたいソースのアンプの入力切換スイッチを押すか、ききたいソースのプレイスイッチを押してください。
- A, Bデッキのモニターをするときは、アンプの入力切換スイッチのテープA(TAPE A)またはテープB(TAPE B)を押してください。

## カセットデッキ



Bデッキ側です。

AデッキかBデッキで録音しながら、片方のカセットデッキでテープを再生するとき

- 録音していない方のカセットデッキに再生するカセットテープをセットし、再生キーを押します。

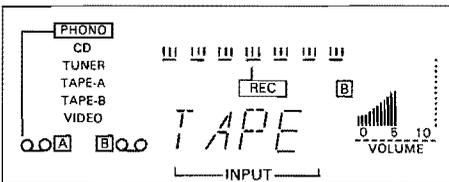
別々のソースをそれぞれ同時に録音するとき I D R S

### <例>

Aデッキにプレーヤーの音を録音しBデッキで再生をするときアンプの表示窓は下図のようになります。

また録音中はバランスインジケータ(BALANCE)が左右に流れるように点滅します。

### アンプの表示窓



“←”“→”は表示の流れる方向を表わしています。

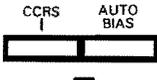
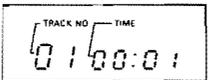
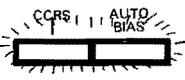
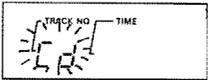
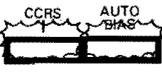
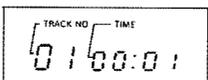
# CDの音をダイレクトにテープへ録音するとき

## CCRS (コンピューターCDレコーディングシステム)

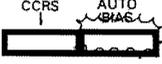
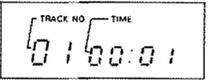
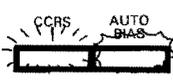
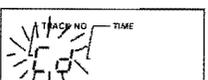
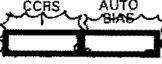
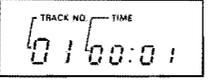
CDプレーヤー (DP-9X, DP-7X) と組み合わせて使用するとCDの音を最適な録音レベルで録音できます。

CDプレーヤーにCDをセットし、Bデッキに録音可能なテープを入れCCRSキーを押します。(動作は下表のようになります。)

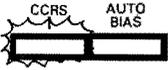
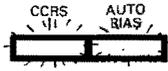
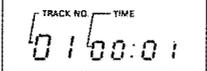
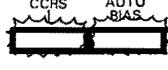
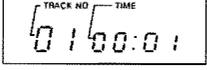
CDの音をダイレクトにテープへ録音するとき

	デッキ表示	CD表示	解 説
1			カセットデッキのCCRSキーを押します。
2			CDプレーヤーは最適出力レベルを決定するためサーチ動作に入り、一方、カセットデッキは、オートバイアス動作を開始します。このとき、カセットデッキのCCRSとAUTO BIASのインジケータが点滅します。(設定完了まで約50秒間を要します。)
3			CCRSとAUTO BIASの設定が完了するとカセットデッキのCCRSとAUTO BIASのインジケータは、点灯になり自動的に録音を開始します。CDプレーヤーからBデッキの録音状態になります。

### ● CCRS でテープ1本に複数のCDを録音する場合

	デッキ表示	CD表示	解 説
1			CCRSで録音終了後 カセットデッキのCCRSとAUTO BIASのインジケータが点灯中にCDプレーヤーのトレイをオープンするとカセットデッキのCCRSインジケータは消灯しコンパクトディスクで設定された最適出力レベルは解除されます。
2			次に録音したいコンパクトディスクをCDプレーヤーにセットし、カセットデッキのCCRSキーを押すと、CDプレーヤーのみサーチ動作に入ります。
3			CCRSの設定が完了すると自動的に録音を開始します。

●テープを交換した場合

	デッキ表示	CD 表示	解 説
1			CCRS で録音終了後 カセットデッキの CCRS と AUTO BIAS のインジケータが点灯中に B デッキをイジェクトすると AUTO BIAS インジケータは消灯し、デッキで設定されたオートバイアスは解除されます。
2			次に録音したいテープをカセットデッキにセットし、カセットデッキの CCRS キーを押すとカセットデッキのみオートバイアス動作に入ります。
3			CCRS と AUTO BIAS の設定が完了すると、自動的に録音を開始します。

※表中  は点灯、 は点滅を表わしています。

CD の音をダイレクトにテープへ録音するとき

●メモリー CCRS

CD プレーヤーでメモリー後 CCRS キーを押すと、CD プレーヤーでメモリーされた順に録音されます。

●CCRS の一時停止は CD プレーヤーのプレイ/ポーズキー (PLAY/||PAUSE) を押します。

デッキは約 4 秒間の無録音部分を作って録音一時停止になります。CCRS の一時停止の解除は再度 CD プレーヤーのプレイ/ポーズキー (PLAY/||PAUSE) を押します。

ご注意：

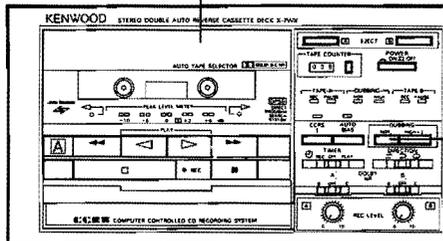
1. CD プレーヤーが接続されていないとき、CD プレーヤーにコンパクトディスクがないとき、CD プレーヤーの電源が入っていないときに CCRS キーを押した場合は、約 10 秒後、インジケータが消灯し解除します。
2. CCRS 設定中 (インジケータ点滅) に B デッキのストップキーまたは、CD プレーヤーのストップキーを押すと CCRS は解除されデッキ、CD 両方とも停止状態になります。このとき、オートバイアスが完了していればオートバイアスは維持されます。
3. CCRS 設定後の解除は、CD プレーヤーのトレイをオープンするか、CD プレーヤーの電源を切ると解除します。
4. CCRS 設定後のオートバイアスの解除は、B デッキのイジェクトキーを押しカセットドアーを開けるか、カセットデッキの電源を切ると解除されます。
5. CD プレーヤーの演奏中に CCRS キーを押すと、演奏は中止され CCRS 動作に入ります。
6. テープの残量が少ない場合、CCRS が途中で解除されることがあります。
7. CCRS はディスクのピークレベルを約 50 秒間でさがすため、ごくまれに最適レベルに設定しきれない場合があります、このような場合は通常の録音にてご使用願います。

# ダビングのしかた

(録音済みのテープから別のテープへコピーすることをダビングといいます。)

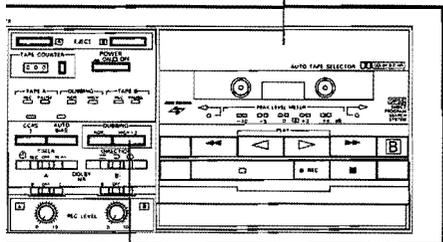
ダビングのしかた

## カセットデッキ



Aデッキ側です。

## カセットデッキ



Bデッキ側です。

## ノーマルダビングのしかた (A→Bデッキのみ)

1. Aデッキへ録音済みテープを入れます。
2. Bデッキへ録音可能なテープを入れます。
3. ノーマルダビングキー (NOR.) を押します。

AデッキからBデッキへのダビング状態になります。

ダビング中にAデッキ操作キーのどれかを押せば、Aデッキは押されたキーのモードになり、Bデッキは約4秒間の無録音部分を作って録音一時停止状態になります。ダビングを再開するときは、再度ノーマルダビングキーを押してください。

ダビング中にBデッキ操作キーのどれかを押せば、ダビングは解除され、Bデッキは押されたキーのモードになり、Aデッキは停止します。

ダビング中にノーマルダビングキーを押すと、録音インジケーターが点滅し、約4秒間の無録音部分を作った後、Bデッキはダビング一時停止状態になります。ダビングを再開するときは、再度ノーマルダビングキーを押してください。

## ノーマルダビング、高速ダビングについてのご注意：

1. ダビング時は、録音レベルの調整ができません。適正なレベルで録音されたテープをAデッキに入れてください。
2. ダビング中は、ドルビーノイズリダクションスイッチのON/OFFにかかわらずドルビーの切換えはできません。(Aデッキと同じテープが作られます。)  
例. Aデッキのテープが、ドルビーBで録音されている場合は、BデッキのテープもドルビーB状態で録音されます。
3. ダビングしたテープから、さらにダビングをしますと音質をそこないしますので、ダビング時は常にオリジナルテープをAデッキにセットすることをおすすめします。
4. システムの近くにテレビが置かれている状態で高速ダビング録音を行いますと、テレビのノイズが録音される場合があります。このときはテレビを離してください。
5. 録音レベルが高いテープを高速ダビングしますと、音質をそこなう場合があります。このような場合は、ノーマルダビングで録音してください。

## 高速ダビングのしかた (A→Bデッキのみ)

- 高速でダビングするときは、  
高速ダビングキー (HIGH) を押します。

ノーマルダビングの約3分の1の時間でダビングすることができます。このとき再度高速ダビングキーを押すと、約6秒間の無録音部分ができます。

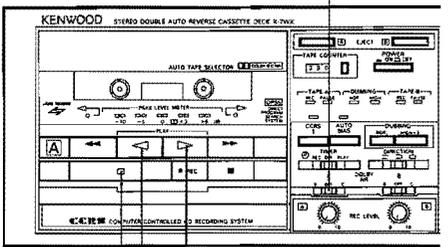
## ■マニュアルダビングについて

マニュアルダビングでは、AデッキからBデッキへ、またはBデッキからAデッキへ相互にダビングできます。

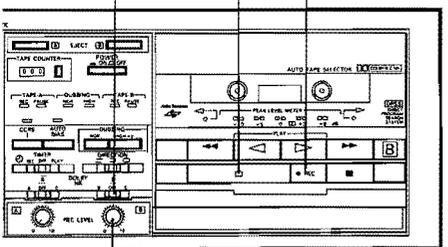
- ドルビー OFF のテープをドルビー ON のテープに、ドルビー ON のテープをドルビー OFF のテープに変えることができるクロスドルビーダビング
- デッキの再生音にマイクミキシングした音を、録音するミキシングダビング
- グラフィックイコライザーを通して再生した音を録音するグライコダビングができます。

### クロスドルビーシステムによるダビングのしかた

カセットデッキ Aデッキ側です。



1. 再生側デッキのドルビーノイズリダクションスイッチを録音内容に合わせてセットします。
2. 録音側デッキのドルビーノイズリダクションスイッチを希望する位置にセットします。
3. 再生側デッキの再生キー(▷)または、リバース再生キー(◁)を押します。
4. 録音側デッキの録音キー(● REC)を押します。
5. 録音レベルは、録音側デッキの録音レベル調整つまみ (REC LEVEL) で調節してください。
6. クロスドルビーシステムによるダビングを解除するには、A、B両デッキの停止キー(□)を押します。



カセットデッキ Bデッキ側です。

## グライコダビング

別売の GE-900W (ステレオダブルグラフィックイコライザー) と組みあわせて、グラフィックイコライザーを通して再生した音を録

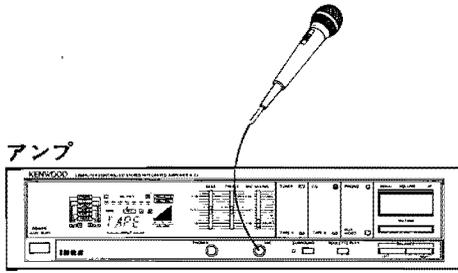
音することができます。  
くわしくは、GE-900W の取扱説明書をごらんください。

## ドルビー NR スイッチとクロスドルビーシステムで作られたテープ

再生側 (テープに応じて 選択します。)	録音側 (自由に選択 します。)	作られたテープ (自由に選択 します。)
		OFF→OFF
		OFF→B
		OFF→C
		B→OFF
		B→B
		B→C

再生側 (テープに応じて 選択します。)	録音側 (自由に選択 します。)	作られたテープ (自由に選択 します。)
		C→OFF
		C→B
		C→C

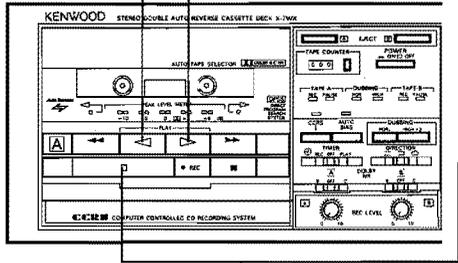
DOLBY の文字および のマークは、ドルビーラボラトリーズ ライセンシング コーポレーションの登録商標です。X-7WX (カセットデッキ) はドルビーラボラトリーズ ライセンシング コーポレーションからの実施権に基づき製造されております。



アンプ

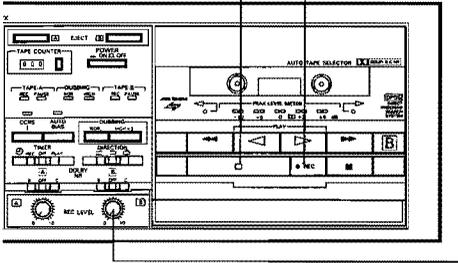
カセットデッキ

Aデッキ側です。



カセットデッキ

Bデッキ側です。



ミキシングダビングのしかた

1. 再生側デッキの再生キー (▶) または、リバース再生キー (◀) を押します。
2. マイクミキシングします。(73 ページ参照)
3. 録音側デッキの録音キー (● REC) を押します。
4. 録音レベルは録音側デッキの録音レベル調整つまみ (REC LEVEL) で調整してください。
5. ミキシングダビングを解除するには、A, Bデッキの停止キー (□) を押します。

ダビングのしかた

# ルーレットプレイについて

## 楽しい機能，ルーレットプレイ

- ルーレットプレイ可能機器の中からマイコンによってランダムに選ばれた曲を次々と連続プレイする機能で長時間飽きる事のないBGMが楽しめます。

### 〈ルーレットプレイ可能機器〉

- プレーヤー：P-7X(オプション)
- カセットデッキ：X-7WX(Bデッキ)
- コンパクトディスクプレーヤー：DP-9X,DP-7X

### ルーレットプレイのしかた

1. コンパクトディスク，カセットテープ，レコードをセットします。

カセットデッキのディレクションモードスイッチはご希望の位置にセットしてください。

2. アンプ(A-7X)のルーレットプレイスイッチを押します。

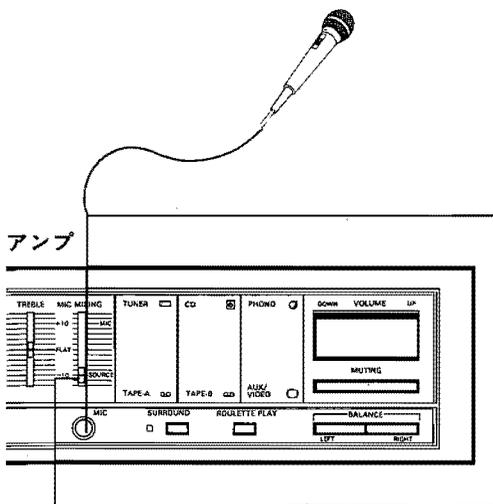
ルーレットプレイスイッチが押されるとまず、アンプの表示窓内の文字表示部がぐるぐるの回りはじめ、それと同時にルーレットプレイ表示が点灯し、システムがルーレットプレイモードに入った事を知らせます。

3. ルーレットプレイを解除するには再度ルーレットプレイスイッチを押します。

### ご注意：

1. カセットデッキが録音状態の場合、ルーレットプレイにはなりません。
2. ルーレットプレイ中に再生中の機器のストップキーを押すと、次に指定されるソースに移りルーレットプレイを続けます。
3. ルーレットプレイ中は、各機器のストップキー（プレーヤーはプレーカットキー（PLAY/CUT））以外は受けつけません。
4. ソースがセットされていない機器は飛ばして演奏します。
5. ルーレットプレイ中は、入力切換えスイッチを押しても動作しませんので、必ずルーレットプレイインジケーターが消えている事を確認してください。

# マイクミキシングについて



## マイクミキシングのしかた

ロキシー  
ROXYはレコード、FM、AM放送、テープなどの音楽に合わせて、マイクを通して歌ったり、話したりすることができます。また、エコーマイクをお使いになりますと、エコーをかけてマイクミキシングすることができます。

1. マイクをマイク端子に差し込みます。
2. ミキシングレベル調整つまみ (MIC MIXING) で、マイクの音量とソースの音量のバランスを調整します。
3. マイクミキシングした音は録音することができます。

ご注意：

1. マイクミキシングは常にアンプの入力切換えスイッチで選ばれたソースと行います。
2. マイクの抜き差しは、ミキシングレベル調整つまみをソースの位置にし、ボリューム (VOLUME) を絞ってから行ってください。

マイクミキシングについて

# スピーカーについて

## レベルコントロールの上手な使いかた (CD-9用スピーカー)

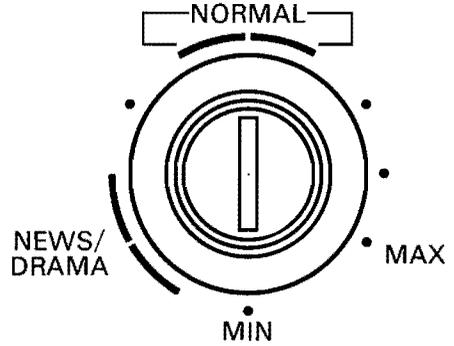
スピーカーについて

CD-9用スピーカーのサラネットを取りはずすと、前面にレベルコントロールがついています。このレベルコントロールで、高音域の音圧レベルを調整することができます。部屋の条件やプログラムソースなどに合わせて調整してください。

レベルコントロールのつまみはMAXの方向に回すと高音域が増強され、MINの方向に回すと高音域が減衰します。

通常の音楽ソースをお聴きになる場合はNORMAL位置からMAXの範囲が適当です。

音楽以外のニュースやドラマなどの音声を長時間お聴きになるときはNEWS/DRAMAの位置がマッチします。

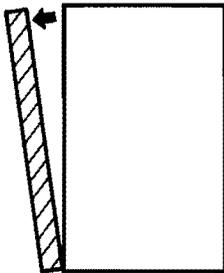


HIGH RANGE LEVEL

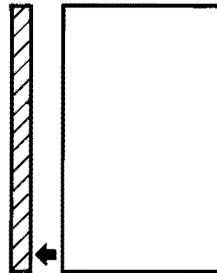
## サラネットの着脱

### ●取りはずしかた

①上部隅を手前に引く

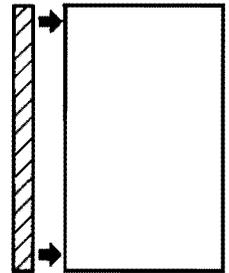


②下部隅を手前に引く



### ●取り付けかた

①四隅を押し込む



# 故障？その前にちょっとお調べください

意外な操作ミスが故障と思われることがよくあります。サービスを依頼する前に、まず次の事項をチェックしてみてください。

本システムはマイコンを使用していますので、外部からの雑音や、妨害ノイズにより正常に動作しない場合があります。そのような場合は、電源コードを一度抜いてからあらためてご使用ください。

故障？その前にちょっとお調べください

## CDプレーヤー関係

症 状	原 因	処 置
電源スイッチを押しても電源が入らない。	電源プラグの差し込みが不完全。	電源プラグをアウトレットにしっかり差し込み直してください。
ディスクを入れても演奏ができない。	1. ディスクの裏表が逆に入っている。 2. ディスクがひどく汚れている。 3. 結露している。 4. 輸送用固定ネジ(2本)を外していない。	1. ディスクのラベル面を上に入れて入れ直してください。 2. クリーニングしてください。 3. 本機を暖かい所に1時間くらい置いてください。 4. 輸送用固定ネジ(2本)を外してください。
音がでない。	接続コードがしっかりと差し込まれていない。	しっかりと接続し直してください。
音とびがする。	1. ディスクがひどく汚れている。 2. ディスクに大きなキズがある。 3. セットに振動が加わっている。	1. クリーニングしてください。 2. ディスクを新しいものに取り換えてください。 3. 振動のない場所に移動してください。
選曲時間(指定の曲をさがし出す時間)が極端に長い。	ディスクにキズや汚れがついている。	クリーニングしてください。キズのときはディスクを新しいものに取り換えてください。

## チューナー関係

故障?その前にちょっとお調べください

症 状	原 因	処 置
プリセットキー (1~0) を押ししても放送を受信できない。	プリセットキー (1~0) に、受信可能な放送局の周波数がプリセットされていない。	受信可能な放送局の周波数に同調をとり、プリセットキー (1~0) にプリセットする。
プリセット後、プリセットキー (1~0) を押ししても放送を受信できない。	長時間の停電でメモリーが消えている。	再度プリセットする。
雑音が入る。	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自動車によるイグニッションノイズ。</li> <li>2. 電気器具の影響によるもの。</li> <li>3. テレビが近くにある。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. アンテナを道路から離して設置する。</li> <li>2. 電気器具の電源を切ってみる。</li> <li>3. テレビを離してください。</li> </ol>

## カセットデッキ関係

症 状	原 因	処 置
オートリバースが誤動作する (動作中に反転する、停止する など)。	1. テープにキズ・オレ・汚れなど がある。 2. テープがワカメ状になっている。 3. テープの磁性体がハゲている。	1, 2. テープを交換するか、ディレ クションモードスイッチをノー マルモード(二)に切換える。 3. テープを交換する。
テープを交換するとテープカウ ンターの数字が合わなくなる。 (C-46, C-60テープなど)	テープの厚みやカセットハーフの 違いによるもの(テープの巻き径)。	テープの違いによるもので故障で はありません。
テープが回らない。	1. テープがどちらかに巻きとられ ている。 2. テープがたるんでいる。 3. 巻き取りムラがあり、テープが 重くなっている。	1. テープを巻き戻すか、裏返す。 2. 鉛筆などでたるみをとる。 3. テープを交換してみる。
録音キーを押しても録音できな い。	1. カセットテープのツメが折れて いる。 2. カセットホルダーが完全にしま っていない。 3. 録音ボリュームが最小の位置に ある。	1. ツメの折れていないテープを用 意する(ツメの折れたテープに 再録音したいときはセロテープ などで穴をふさぐ)。 2. ホルダーを完全にしめる。 3. “テープ録音のしかた”を参照し てください。(49ページ)
再生キーを押しても音がでない。	1. 接続コードの結線違い。 2. ヘッドの汚れ。 3. 巻き取りムラがありテープが重 くなっている。 4. テープが未録音。	1. “接続のしかた”を参照してくだ さい。(11ページ) 2. “ヘッド回りのクリーニング” を参照してください。(79ページ) 3. テープを交換してみる。 4. 録音済テープを入れる。
音がかすれたり高音が出なくな る。	1. ヘッドが汚れている。 2. テープがのびたり、ワカメ状に なっている。	1. “ヘッド回りのクリーニング” を参照してください。(79ページ) 2. テープを交換する。
音がひずむ。	1. 録音時、録音ボリュームを上げ すぎている。 2. ソースがひずんでいる。	“テープ録音のしかた”を参照して ください。(49ページ)
雑音大きい。	1. ヘッドが磁気を帯びている。 2. 外部からの誘導雑音。 3. 録音レベルが低い。 4. ドルビー録音したテープをドル ビーノイズリダクションスイッ チ OFF で再生している。	1. ヘッドイレーサーで消磁する。 2. 他の電気器具から離す。 3. “テープ録音のしかた”を参照 してください。(49ページ) 4. ドルビーノイズリダクションス イッチを ON にする。 ドルビーノイズリダクションス イッチを ON にして録音すること をおすすめします。

故障?その前にちょっとお調べください

音がふるえる。	1. キャプスタン、ピンチローラーの汚れ。 2. テープが一樣に巻かれていない。	1. “ヘッド回りのクリーニング”を参照ください。(79ページ) 2. 早送り, または巻き戻してテープを巻き直す。
電源を入れると再生, または録音が始まる。	タイマースタンバイスイッチが“PLAY”または“REC”になっている。	タイマー再生または録音をするとき以外はタイマースタンバイスイッチを“OFF”にしておく。
DPSSが誤動作する。	曲間が短いなどDPSSに不適当なテープを使用している。	“DPSS”を参照してください。(56ページ)
ダビング時, AデッキとBデッキで終了時間が若干異なる。	テープの長さのバラツキ及びデッキのメカニズムの特性による。	多少の時間差は故障ではありません。
イジェクトキーを押してもドアが開かない。	録音中, または再生中に押している。	録音中, または再生中は停止状態にしてからイジェクトキーを押してください。
操作キーを押しても動作しない。	1. 電源スイッチを押してから3秒以内に押している。 2. テープが入っていない。 3. 巻き取りムラがありテープが重くなっている。	1. 3秒以上経過してから操作ボタンを押してください。 2. テープを入れる。 3. テープを交換してみる。

※ご注意: 120分テープは, テープ厚がうすくてワカメ状になりやすいため, ご使用にならないでください。

## アンプ, スピーカー関係

症 状	原 因	処 置
スピーカーの左右とも音が出ない。	1. スピーカーコードがはずれている。 2. ボリュームキーがいっぱいに絞ってある。 3. ミキシングレベル調整つまみがMICの位置になっている。 アダプター端子のショートピンが抜かれている。	1. アンプとスピーカーの接続を点検してください。 2. 適当な音量にしてください。 3. ミキシングレベル調整つまみをSOURCEの位置にする。  ショートピンをつける。
スピーカーの片側だけ音が出ない。	1. スピーカーコードがはずれている。 2. バランス調整が片側いっばいに絞られている。	1. アンプとスピーカーの接続を点検してください。 2. バランス調整つまみを調整する。

システム動作中, テレビ画面に妨害を与えることがありますので, テレビを離すかまたは, テレビの電源を切って音楽をお楽しみください。

# 保守とお手入れのしかた

## (カセットデッキ)

### 簡単なお手入れのしかた

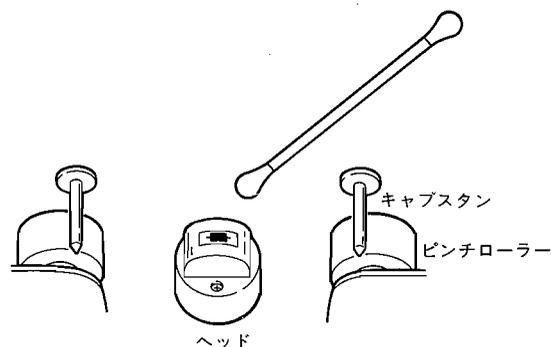
#### ヘッド回りのクリーニング

録・再等のヘッドは、使用しているうちにミクロン(1/1000ミリ)単位の微小なゴミや磁粉の付着により汚れてきます。いつまでも最高の状態でご使用になるには、テープ再生時間約10時間ごとに、消去ヘッド、録・再ヘッド、キャプスタン、ピンチローラーのクリーニングを心がけてください。クリーニングは、次の手順で行ってください。

1. イジェクトボタンを押し、カセットホルダーをあけてください。
2. 消去ヘッド、録・再ヘッド、およびキャプスタン、ピンチローラーを、クリーニング液を含ませた綿棒で注意深くクリーニングしてください。そのあと、からぶきしてください。

ご注意： \_\_\_\_\_

ヘッドのテープガイドなど、精密に調整された部分があります。クリーニングのさいは、引っかけたり、強い衝撃などを加えないように注意してください。



#### ヘッドの消磁

録・再ヘッドが磁気を帯びると雑音が大きくなります。市販のヘッドイレーサーで消磁してください。

## アフターサービスについて

1. 保証書—この商品の保証書は別途添付しております。  
必ず所定事項の記入および記載内容をご確認いただき大切に保存してください。
  2. 保証期間—お買上げの日より1年間です。正常なご使用状態でこの期間内に万一故障を生じた場合には、保証書の記載内容によりお買上げの販売店またはケンウッドの営業所が無料修理いたします。
  3. 保証期間経過後の修理についてはお買上げの販売店またはケンウッドの営業所にご相談ください。修理によって機能が維持できる場合にはお客様のご要望により有料修理いたします。
  4. 補修用性能部品の最低保有期間は製造打切後8年間（カセットデッキは6年間）です。性能部品とはその製品の機能を維持するために必要な部品です。
  5. なおアフターサービスについて、ご不明な点はお買上げの販売店またはケンウッドの営業所にご遠慮なくご相談ください。
- ※ダンボール箱は是非保管し、アフターサービスや引越しの際大切な機器を保護するためにご利用ください。

修理のためお買上げの販売店またはケンウッドの営業所にセットをお持ちになる場合は、お買上げのセット全部をお持ちください。（スピーカーを除きます。）

DOLBYの文字および  のマークは、ドルビーラボラトリーズ ライセンシングコーポレーションの登録商標です。X-7WX（カセットデッキ）はドルビーラボラトリーズ ライセンシング コーポレーションからの実施権に基づき製造されております。

### ステレオ音のエチケッ

楽しい音楽も、時と場所によっては気になるものです。隣り近所への配慮を十分いたしましょう。ステレオの音量は、あなたの心がけ次第で大きくも小さくもなります。

特に静かな夜間には、小さな音でも通りやすいものです。夜間の音楽鑑賞には、十分気を配りましょう。

窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。

ご注意：あなたが録音したテープは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上の権利者に無断で使用できません。



## A-7X (アンプ)

[オーディオ部総合特性]

TUNER, TAPE→SPKR (一部PHONO→SPKR)

定格出力……………45W+45W

(30Hz~20kHz, 0.06%, 6Ω)

実用最大出力……………70W+70W

(1kHz, EIAJ10%, 6Ω)

サラウンド実用最大出力……………8W+8W

(1kHz, EIAJ10%, 8Ω)

全高調波ひずみ率……………0.06%

(定格出力時30Hz~20kHz)

入力感度及び入力インピーダンス

PHONO(MM)……………2.5mV, 47kΩ

TUNER, AUX, TAPE PLAY

……………150mV, 47kΩ

MIC……………1.3mV, 47kΩ

トーンコントロール

BASS……………±10dB(100Hz)

TREBLE……………±10dB(10kHz)

[電源部・その他]

電源電圧・電源周波数……………AC100V, 50/60Hz

定格消費電力……………115W

(電気用品取締法に基づく表示)

電源コンセント……………電源スイッチ連動2個100W

電源スイッチ非連動1個200W

最大外形寸法……………幅340×高さ84×奥行362(mm)

重量……………正味6.2kg

## CD-9用スピーカー

型式……………AV対応防磁型

3ウェイスピーカーシステム

エンクロージャー型式

……………バスレフ方式ブックシェルフ型

使用スピーカー

ウーハー……………23cm P-Pコーン型

(CLASS A サスペンション W.V.C)

スクーカー……………8cm コーン型

ツイーター……………5cm コーン型

インピーダンス……………6Ω

最大許容入力……………150W(EIAJ)

定格入力……………50W(EIAJ)

出力音圧レベル……………88dB/W 1m

再生周波数特性……………32Hz~20,000Hz

寸法……………幅290×高さ495×奥行213(mm)

重量……………8.1kg(1本)

## CD-7用スピーカー

型式……………AV対応防磁型

3ウェイスピーカーシステム

エンクロージャー型式

……………バスレフ方式ブックシェルフ型

使用スピーカー

ウーハー……………23cm P-Pコーン型

スクーカー……………6.5cm コーン型

ツイーター……………5cm 圧電コーン型

インピーダンス……………6Ω

最大許容入力……………100W(EIAJ)

定格入力……………50W(EIAJ)

出力音圧レベル……………88dB/W 1m

再生周波数特性……………35Hz~20,000Hz

寸法……………幅270×高さ480×奥行216(mm)

重量……………6.8kg(1本)

[付属品]

両ピンコード……………6本

シンクロコード……………3本

AMループアンテナ……………1個

T型アンテナ(FM, VHF用)……………1本

リードアンテナ(UHF用)……………1本

AMループアンテナホルダー……………1個



アフターサービスのお問合せは、  
購入店または最寄りの当社サービスセンター  
営業所をご利用ください。  
商品に関するその他のお問合せは、  
お客様相談室をご利用ください。  
電話(03)486-5515

KENWOOD

株式会社 ケンウッド  
東京都渋谷区渋谷2-17-5(シオノギ渋谷ビル)〒150  
電話(03)486-5511